

Hyperion(R) Enterprise(R)

リリース 6.5.1

STATUTORY CONSOLIDATION ENGINE ガ
イド

ORACLE®
ENTERPRISE PERFORMANCE
MANAGEMENT SYSTEM

Hyperion Enterprise Statutory Consolidation Engine ガイド, 6.5.1

Copyright © 1991, 2009, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

著者: Enterprise Information Development Team

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントが、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供される場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS:

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、このソフトウェアを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle は、Oracle Corporation またはその関連会社、あるいはその両方の登録商標です。他の名称は、それぞれの所有者の商標である可能性があります。

このソフトウェアおよびドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても、一切の責任を負いかねます。

目次

第 1 章 Statutory Consolidation Engine について	7
SCE の機能	7
SCE の設定	8
多言語サポート	10
SCE 管理	11
[SCE 管理] ウィンドウ	11
SCE 管理の起動	12
SCE 管理の終了	12
SCE グローバル設定	12
一般的な SCE 設定	13
為替レート勘定科目の定義	17
キーワードの定義	19
キーワードの編集	20
コードセットの定義	20
フローの定義	22
特殊フローの定義	22
前期の親の定義	23
会社間グループの定義	24
会社間グループの編集	26
次期繰越	27
第 2 章 SCE かんすう	29
関数の概要	29
TRN 関数	29
TRN 関数の Major、Sub1、Sub2 の各パラメータ	30
TRN 関数の Factor パラメータ	30
TRN 関数の Criteria パラメータ	30
CON 関数	31
CON 関数の Major、Sub1、Sub2 の各パラメータ	32
CON 関数の Factor パラメータ	32
CON 関数の Criteria パラメータ	32
CRI 関数と CRIELSE 関数	33

SCE 関数のキーワード	34
Major、Sub1、Sub2 パラメータのキーワード	35
TRN の Factor パラメータで使用するキーワード	35
CON の Factor パラメータで使用するキーワード	37
Criteria パラメータのキーワード	38
第 3 章 SCE ルール	39
SCE ルールの概要	39
ルールのパラメータ	40
負のルール	41
ネストされたルール	41
ルールの定義	42
ルールプロパティの編集	43
デフォルトの SCE ルールの定義	43
第 4 章 SCE ロジック	45
SCE ロジックの概要	45
例外サブ勘定科目	46
複数サブ勘定科目	46
主要勘定科目	47
換算ロジック	47
連結ロジック	48
ロジックの定義	49
ロジックのテスト	50
ロジックのコンパイル	51
ネストされたロジックの定義	51
デフォルトルールの無視	52
第 5 章 SCE ユーティリティ	53
データの視点の設定	53
期末残高の次期繰越	54
子の連結詳細データの抽出	54
転記済みトランザクションの表示	56
第 6 章 システム管理関連の注記	57
期別処理	57
前期	57
パートナーの消去データ表	58
複数レベルの連結	58
配賦先勘定科目	59
変動サブ勘定科目	60

サブ勘定科目 OPE からサブ勘定科目 VAR への変換	60
期末残高サブ勘定科目	61
第7章 ウィンドウとダイアログボックスに関するヘルプ	63
[データ表の抽出] ダイアログボックスのオプション	63
[SCE 管理] ウィンドウのオプション	64
[SCE デフォルトルール] ウィンドウのオプション	65
[SCE デフォルトルール] ウィンドウのオプション: [連結] タブ	65
[SCE デフォルトルール] ウィンドウのオプション: [変換] タブ	66
[SCE グローバル設定] ウィンドウのオプション	66
[SCE グローバル設定] ウィンドウのオプション: [次期繰越] タブ	67
[SCE グローバル設定] ウィンドウのオプション: [コードセット] タブ	68
[SCE グローバル設定] ウィンドウのオプション: [フロー] タブ	68
[SCE グローバル設定] ウィンドウのオプション: [一般] タブ	68
[SCE グローバル設定] ウィンドウのオプション: [会社間グループ] タブ ...	69
[SCE グローバル設定] ウィンドウのオプション: [キーワード] タブ	69
[SCE グローバル設定] ウィンドウのオプション: [前期の親] タブ	70
[SCE グローバル設定] ウィンドウのオプション: [レート] タブ	70
[SCE グローバル設定] ウィンドウのオプション: [特殊フロー] タブ	71
[SCE マクロルールエディタ] ウィンドウのオプション	71
[SCE マクロルールエディタ] ウィンドウのオプション: [連結] タブ	71
[SCE マクロルールエディタ] ウィンドウのオプション: [変換] タブ	72
[SCE ロジックエディタ] ウィンドウのオプション	72
[SCE ロジックエディタ] ウィンドウのオプション: [連結] タブ	73
[SCE ロジックエディタ] ウィンドウのオプション: [変換] タブ	73
付録 A. データをユーロに換算するための関数と処理	75
ユーロへのデータ換算の概要	75
特殊な SCE 処理に必要な情報	75
重要な注意事項	75
完了しておく必要があるタスク	76
SCE を使用した処理の一般的なルール	78
索引	81

1

Statutory Consolidation Engineについて

この章の内容

SCE の機能.....	7
SCE の設定.....	8
多言語サポート	10
SCE 管理.....	11
SCE グローバル設定.....	12
次期繰越.....	27

SCE の機能

Statutory Consolidation Engine (SCE) は、アプリケーションのデータ密度が低く、次のいずれかの状態が存在する場合に、オラクル社の Hyperion Enterprise 5 および Hyperion Enterprise の SQL バージョンと連動して連結の性能と機能を向上させるアドオン製品です。

- 勘定科目表のサイズが、会社間詳細の多用により増大している。
- 会社間トランザクションについて暫定的なルールを定義する必要がある。
- 項目と連結のリザーブを計算して、連結処理の詳細な監査証跡を作成するために、複雑な連結ロジックを定義する必要がある。

SCE は連結エンティティの換算表、比率表、消去データ表への Hyperion Enterprise による書き込み処理を無効にします。SCE を使用すると、次の 2 点により Hyperion Enterprise の換算および連結処理の性能レベルが改善されます。

- SCE は、配賦先の勘定科目ではなく配賦元の勘定科目ごとに計算式を定義します。
- SCE は影響のあった連結を親ごとではなく子ごとに実行します。

例えば、Hyperion Enterprise の計算式では、配賦先勘定科目 (#X) は配賦元勘定科目 (#Y-#Z) の数式に等しくなります。

SCE の計算式では、これとは反対に、配賦元勘定科目から配賦先勘定科目の値が作成されます。

#Y に値があれば、#X に加算します。

#Z に値があれば、#X から減算します。

これによって、SCE は、値を持つ勘定科目を探して、これらの勘定科目に割り当てられているルールだけを実行することができます。このため、計算式の計算に

必要な時間は、計算式がある勘定科目数ではなく、値がある勘定科目数によって決まります。

変更に影響されている連結では、SCE は、親に子を再連結する前に子のステータスをチェックします。SCE は、前回の連結後に変更があった子だけ进行处理します。前に計算されて保存されている、その他の子の調整後の詳細は、再計算せずに親に加算されます。

SCE は、Hyperion Enterprise によって呼び出される換算および連結エンジン、およびシステム管理者が SCE ロジックの内容を定義して SCE で使うパラメータを設定するために使用する Administration モジュールで構成されています。

SCE の換算と連結エンジンは、Hyperion Enterprise の換算と連結の 2 つの処理を実行します。

換算処理では、SCE 固有の換算ルールを子からのローカル通貨データに適用し、結果をそのエンティティの換算連結詳細に書き込むことによって、換算が行われます。この処理は、親と子が同じ通貨を使用する場合は省略されます。

勘定科目の連結処理では、換算されたデータに SCE 固有の連結ルールを適用し、結果をその子の比率または消去連結詳細データ表またはパートナーか会社間エンティティの消去データ表に書き込みます。親と子が同じ通貨を使用する場合、SCE は換算プロセスを省略し、ローカル通貨データを換算済みデータに使用して連結を行います。また、SCE では複数のユーザによる連結も可能です。但し、SCE 管理でロジック、ルール、デフォルトおよびグローバル設定情報にアクセスできるのは、一度に 1 人のユーザのみです。

SCE の設定

連結を実行すると、親の直属のすべての子に対して換算処理と連結処理が一度に実行されます。ユーザは、SCE を呼び出すタイミングや、通常の Hyperion Enterprise の連結処理を呼び出すタイミングを認識する必要はありません。連結モジュール、親、および連結する期間を選択するだけです。SCE を呼び出すには、アプリケーションの作成時に次のオプションを選択する必要があります。

- Statutory Consolidation Engine の使用
- 比率と消去の詳細
- 期間およびデータ種別ごとの親子関係

注： このオプションはアプリケーションには必要ありませんが、このオプションを選択しなかった場合に連結できるのは、一度に 1 つの期間のみです。

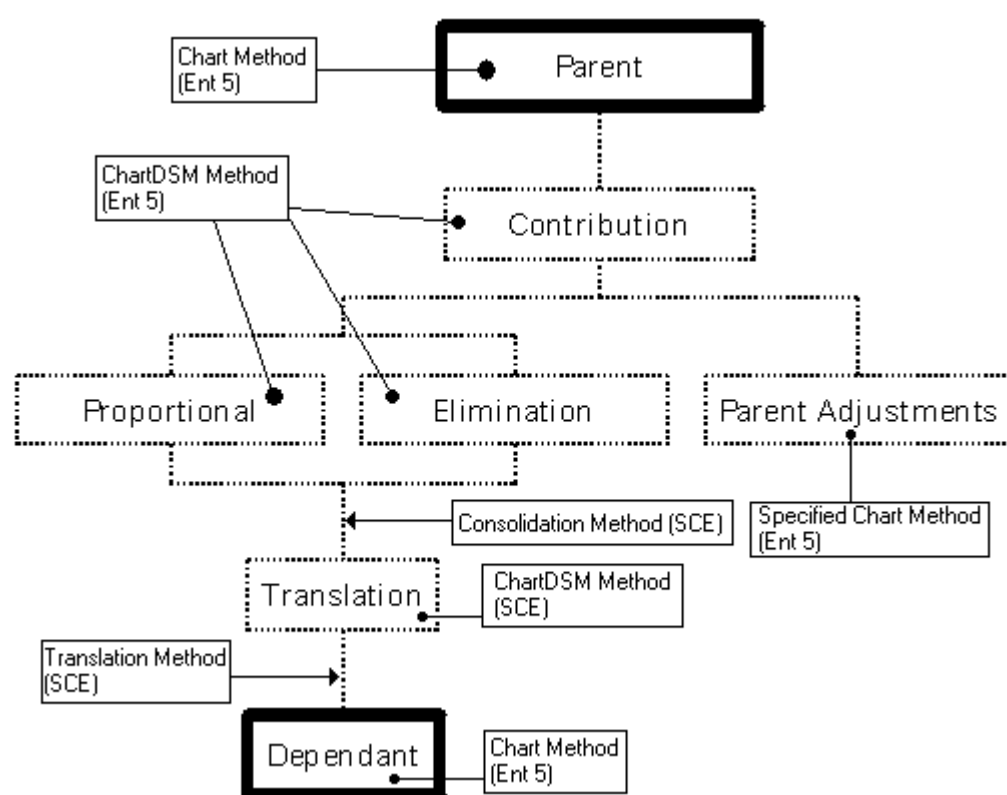
連結されるデータ種別と親の比率と消去の詳細の保存が有効な場合にのみ、Hyperion Enterprise によって SCE が呼び出されます。前述の条件に一致すると、親と連結処理の期間ごとに次の一連のイベントが発生します。

1. SCE では、各直属の子の適切なデータを読み込んで換算トランザクションを生成し、そのトランザクションを各子の換算連結詳細に書き込みます。
2. 各子の換算連結詳細で CHARTDSM ロジックを実行します。

3. SCE では各子の換算データを読み込んで連結トランザクションを生成し、適切な子の比率または消去連結詳細データ表に連結トランザクションを書き込みます。
4. 変更されたすべての連結詳細データ表で CHARTDSM ロジックを実行します。
5. 比率、消去、および親の調整連結詳細表を結合して各子の調整後連結詳細を作成します。
6. 各子の調整後連結詳細で CHARTDSM ロジックを実行します。
7. すべての調整後連結詳細を親データ表に集計します。
8. 親の入力ロジックを実行します。

図 1 は連結処理を示しています。

図 1 SCE 処理



SCE で換算や連結に使用する計算式は、Hyperion Enterprise エンティティモジュールのノードごとに割り当てられます。SCE 内のロジックは、SCE 管理モジュールの SCE ロジックエディタで適切な式を使用して指定する必要があります。詳しくは、および11 ページの「SCE 管理」および45 ページの「SCE ロジック」を参照してください。

SCE ロジックの命令は、適切な配賦元連結詳細表の配賦元勘定科目に割り当てられる SCE ルールから構成されます。SCE ルールは SCE 関数の組み合わせです。SCE 関数は基本的な SCE 命令です。各関数によってトランザクションが生成されます。このトランザクションは、連結詳細データ表内の特定の勘定科目に書き込まれる値になります。SCE トランザクションは累積されます。つまり、SCE ロジックによって同じ勘定科目に複数の値が書き込まれ、同じ勘定科目で生成されたすべてのトランザクションが集計されてその勘定科目の合計値になる場合があります。

す。詳しくは、[39 ページの「SCE ルール」](#) および [29 ページの「SCE かんすう」](#) を参照してください。

通常の Hyperion Enterprise のロジックとは異なり、SCE ロジックにはデータ種別固有のセクションがありません。データ種別または期間によってロジックを区別するには、アプリケーションで [期間およびデータ種別ごとの親子関係] を有効にし、さまざまなロジックをさまざまなデータ種別または期間に割り当てることができます。また、それらの期間またはデータ種別に他とは異なる基準ステートメントも設定できます。

SCE を設定するには、Hyperion Enterprise 内で次の作業を実行する必要があります。

- アプリケーション作成時に次のオプションを有効にします。
 - Statutory Consolidation Engine の使用
 - 比率と消去の詳細
 - 期間およびデータ種別ごとの親子関係

注： このオプションはアプリケーションには必要ありませんが、このオプションを選択しなかった場合に連結できるのは、一度に 1 つの期間のみです。

- 比率と消去の詳細を保存するために次のオプションを有効にします。
 - 現在のデータ種別
 - 連結される親

詳しくは、『Hyperion Enterprise 管理者用ガイド』を参照してください。

Hyperion Enterprise の初期設定が完了したら、SCE 管理で次の作業を行う必要があります。

- グローバルパラメータを定義します。詳しくは、[12 ページの「SCE グローバル設定」](#) を参照してください。
- SCE デフォルト換算ルールおよびデフォルト連結ルールを定義します。詳しくは、[43 ページの「デフォルトの SCE ルールの定義」](#) を参照してください。
- ルールを定義します。詳しくは、[42 ページの「ルールの定義」](#) を参照してください。
- ロジックを定義します。詳しくは、[49 ページの「ロジックの定義」](#) を参照してください。

多言語サポート

SCE では、LedgerLink や Hyperion Allocations などの他のオラクル社の Performance Management ソフトウェアのアドオン製品と同じ多言語サポート技術を使用します。[SCE 管理] ウィンドウの [言語の選択] オプションを使用すると、言語の一覧から使用する言語を選択できます。SCE のすべてのメニューコマンド、見出しおよびメッセージが、選択した言語で表示されます。

注： システムメッセージはすべて `sce.lng` リソースファイルに保存されます。このファイルがない場合は、すべてのメッセージが英語で表示されます。`sce.lng` ファイルの場所と現在の言語の選択は、Windows ディレクトリにある `hpaddons.ini` ファイルの[SCE]セクションに保存されます。`sce.lng` リソースファイルに言語を追加する場合は、Oracle カスタマーサポートにお問い合わせください。

SCE 管理

SCE 管理モジュールを使用すると、次の SCE 管理タスクを実行できます。

- SCE によってアプリケーション全体で使用されるグローバル設定を定義します。
- デフォルトの SCE 換算ルールおよび連結ルールを定義します。
- SCE ロジックで使用されるルールを定義します。
- SCE で換算および連結処理時に使用するロジックを定義してコンパイルします。

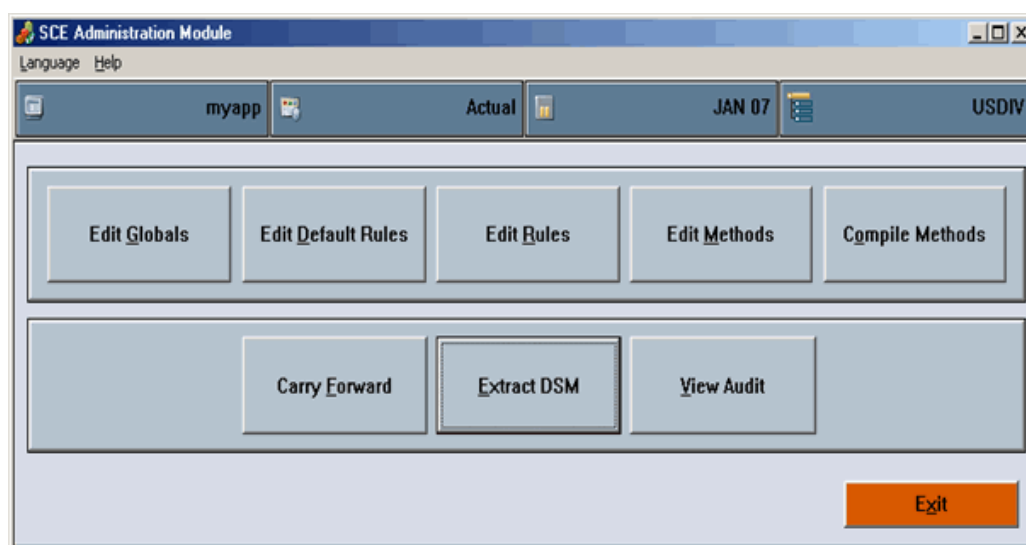
SCE 管理モジュールを使用すると、次の SCE 関連タスクを実行できます。

- 勘定科目の前期末残高を今期の期首残高に繰り越します。
- DSM 表の内容をテキストファイルに抽出します。
- SCE によって生成されたトランザクション監査ファイルの内容を表示します。

[SCE 管理] ウィンドウ

SCE のタスクはすべて [SCE 管理] ウィンドウから実行します。図 2 は、[SCE 管理] ウィンドウを示しています。

図 2 [SCE 管理] ウィンドウ



[SCE 管理] ウィンドウには、次の設定を選択するためのボタンがあります。

- アプリケーション、データ種別、日付（期間）および親 - 1 行目にあるボタンを使用してデータの視点を設定します。SCE 関連タスクのアプリケーション、データ種別、期間、およびアプリケーション内の親を変更できます。詳しくは、53 ページの「データの視点の設定」を参照してください。
- [グローバルの編集]、[デフォルトルールの編集]、[ルールの編集]、[ロジックの編集]、[ロジックのコンパイル] - 2 行目にあるボタンを使用して、グローバル設定の編集、デフォルトルールの編集、ルールの編集、ロジックの編集およびロジックのコンパイルを行うことができます。これらのタスクは順序に関係なく実行できますが、コンパイルする前にあらかじめデフォルトのグローバル設定、ルール、ロジックを設定しておく必要があります。詳しくは、8 ページの「SCE の設定」を参照してください。
- [次期繰越し]、[DSM の抽出]、[監査証跡の表示] - 3 行目にあるボタンを使用して、期首残高の繰越、連結詳細コンポーネントの抽出、実行されたトランザクションの監査証跡の表示などの SCE 関連タスクを実行します。詳しくは、53 ページの「SCE ユーティリティ」を参照してください。

SCE 管理の起動

SCE 管理は Hyperion Enterprise のプログラムグループから起動します。SCE を起動する前に、Windows 環境の基礎を理解しておく必要があります。Microsoft Windows の使用方法について詳しくは、Microsoft Windows のユーザガイドを参照してください。

- ▶ SCE 管理を起動するには、次の手順に従います。
 - 1 [スタート] メニューから、[プログラム]、[Hyperion Solutions]、[Hyperion Enterprise]、[SCE Statutory Consolidation Engine] の順に選択します。
 - 2 アプリケーションを選択します。
 - 3 ユーザ名を入力します。
 - 4 パスワードを入力し、[OK] をクリックします。

SCE 管理の終了

SCE 管理は、[SCE 管理] ウィンドウで終了します。システムを終了すると Windows の画面が再び表示されます。

- ▶ SCE を終了するには、[SCE 管理] ウィンドウで **[終了]** を選択します。

SCE グローバル設定

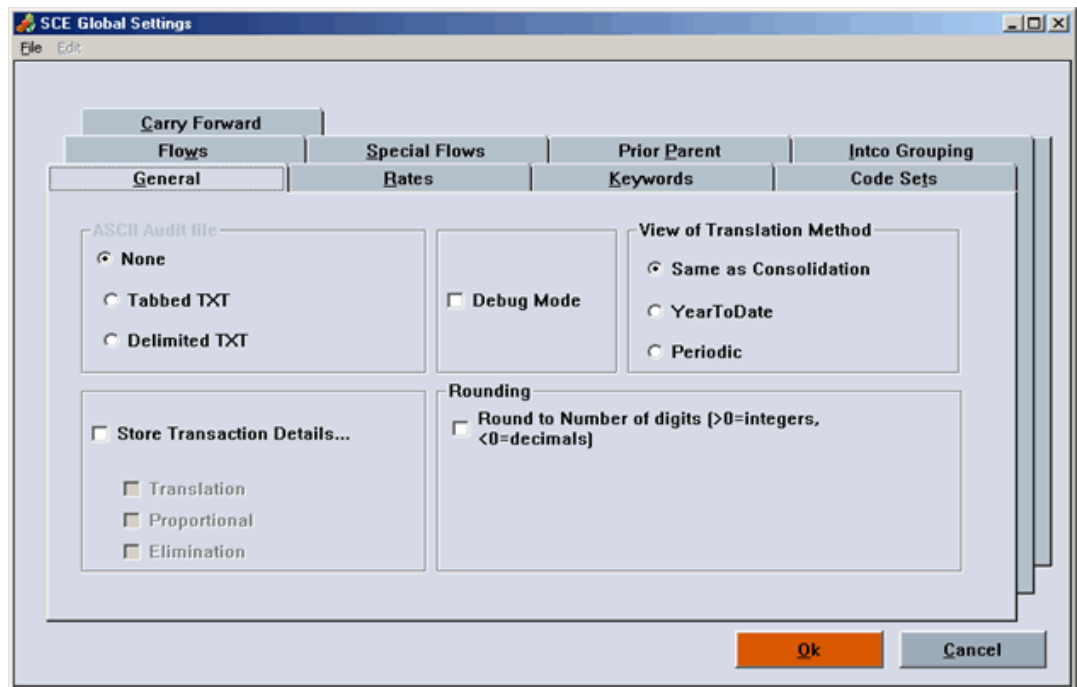
SCE では、一連のグローバルパラメータを定義する必要があります。SCE 用にグローバル設定を定義するウィンドウを使用して次の項目を定義します。

- 一般的な SCE 設定
- 為替レート勘定科目

- キーワード
- コードセット
- フロー
- 特殊フロー
- 前期の親
- 会社間グループ
- 次期繰越設定

図 3 は、SCE のグローバル設定ウィンドウを示しています。

図 3 SCE のグローバル設定ウィンドウ



一般的な SCE 設定

SCE 用にグローバル設定を定義するときは、次のタスクを実行するための一般的な設定も定義する必要があります。

- 監査ファイルの作成
- デバッグ機能の有効化
- 四捨五入設定の指定
- 換算ロジック表示形式の変更

監査ファイル

換算および連結の処理中、SCE では監査ファイルを作成および保存できます。監査ファイルには、勘定科目別に合計され Hyperion Enterprise のデータベースに書き込まれたトランザクションが含まれます。このファイルを使って、すべてのト

ランザクションの全一覧を保存し、監査またはデバッグ用に使用できます。表 1 に示すように、このファイルは 2 つの形式から選択できます。

表 1 監査ファイルの種類

形式	保存されるファイル	ディレクトリ
タブ区切りテキスト	AUDIT.OUT	SCE ディレクトリ
カンマ区切りテキスト	Cat_Per.TXT ここで、Cat は Hyperion Enterprise でのデータ種別、Per は指定したデータ種別の期間です。	USER ディレクトリ

タブ区切りテキストファイル

タブ区切りテキストファイルは、すべてのデータフィールドがタブ文字で区切られているファイルです。タブ区切りテキストファイル内の表は、処理の開始時にクリアされます。タブ区切りテキストファイル内のフィールドは整列されます。ファイルを表示するにはテキストエディタを使用します。

タブ区切りテキストファイルには次のフィールドがあります。

- 配賦元エンティティ
- 配賦先エンティティ
- 配賦先 DSM 表数値コード (2 = 比率、4 = 消去、32 = 換算)
- 配賦先勘定科目
- 3 桁ごとにカンマで区切られた値

図 4 は、タブ区切りテキストファイルの構造を示しています。

図 4 タブ区切りテキストの例

```
FRANCE.TOT  FRANCE.TOT  32 PURCH.UK          900,000.
FRANCE.TOT  FRANCE.TOT  32 PURCH.TOT          900,000.
FRANCE.TOT  FRANCE.TOT  32 PURCH.TOTI        - 900,000.
FRANCE.TOT  FRANCE.TOT  32 BUILD.OPEN        131,900,000.
FRANCE.TOT  FRANCE.TOT  32 INV.OPEN.TOT        4,200,000.
FRANCE.TOT  FRANCE.TOT  32 RECLT.OPEN.TOT      15,330,000.
FRANCE.TOT  FRANCE.TOT  32 RECST.OPEN.TOT      12,300,000.
FRANCE.TOT  FRANCE.TOT  32 CAPITAL.OPEN      151,500,000.
```

カンマ区切りテキストファイル

カンマ区切りテキストファイルは、すべてのデータフィールドがカンマ (,) で区切られているファイルです。カンマ区切りテキストファイルはクリアされず、処理中に新しいレコードが末尾に追加されます。このファイルは手動で削除したり、データベースまたはスプレッドシートに読み込んだりできます。

カンマ区切りテキストファイルには次のフィールドがあります。

- ルール (デフォルトの TRN または CON 空白フィールド)

- 配賦元親
- 配賦元エンティティ
- 配賦元 DSM 表
- 配賦元勘定科目
- 配賦先親
- 配賦先エンティティ
- 配賦先 DSM 表
- 配賦先勘定科目
- 書式が設定されていない値

図 5 は、カンマ区切りテキスト監査ファイルの構造を示しています。

図 5 カンマ区切りテキストの例

```
,GROUP,FRANCE.TOT,[TRANS],SALES.TOTI,GROUP,FRANCE.TOT,[PROP],SALES.TOTI,-1800000
,GROUP,FRANCE.TOT,[TRANS],SALES.TOT,GROUP,FRANCE.TOT,[PROP],SALES.TOT,1800000
,GROUP,FRANCE.TOT,[TRANS],PURCH.UK,GROUP,FRANCE.TOT,[PROP],PURCH.UK,900000
,GROUP,FRANCE.TOT,[TRANS],PURCH.TOTI,GROUP,FRANCE.TOT,[PROP],PURCH.TOTI,-900000
,GROUP,FRANCE.TOT,[TRANS],PURCH.TOT,GROUP,FRANCE.TOT,[PROP],PURCH.TOT,900000
```

- ▶ 監査ファイルを作成するには、次の手順に従います。
 - 1 [SCE 管理] ウィンドウで [グローバルの編集] を選択し、[一般] タブを選択します。
 - 2 監査ファイル形式の種類を選択します。
 - 3 [OK] をクリックします。

デバッグ機能を有効にする

デバッグ機能を有効にすると、処理中に SCE が Hyperion Enterprise の error.log ファイルに書き込む情報の量が増えます。この情報には、読み取られたレコード数、作成されたトランザクション数、および処理に必要な時間などが含まれます。デバッグモードを選択しない場合、SCE は error.log ファイルに要約された説明メッセージを書き込みます。

- ▶ デバッグ機能を有効にするには、次の手順に従います。
 - 1 [SCE 管理] ウィンドウで [グローバルの編集] を選択し、[一般] タブを選択します。
 - 2 [デバッグモード] を選択します。
 - 3 [OK] をクリックします。

換算ロジック表示形式の変更

換算データのデフォルト表示形式は、アプリケーションの連結フラグと同じです。必要に応じて、この設定を使用して CTD または期別表示形式に変更したり、デフォルト表示形式に戻すことができます。詳しくは、57 ページの「期別処理」を参照してください。

▶ 換算ロジック表示形式を変更するには、次の手順に従います。

- 1 [SCE 管理] ウィンドウで [グローバルの編集] を選択し、[一般] タブを選択します。
- 2 [換算ロジックの表示形式] グループで、[累計]、[期別]、[連結と同じ] のいずれかを選択します。
- 3 [OK] をクリックします。

トランザクション詳細の保存

sce.mdb という監査ファイルを作成し、データを Microsoft Access 形式で保存できます。sce.mdb ファイルには、換算、比率または消去トランザクションの詳細が保存されます。これらのトランザクション詳細のいずれかまたはすべてを保存できます。MDB ファイル内のレコードは、Period_xx という表に保存されます。ここで、xx は期間番号です。このファイルは、SCE 管理モジュールの [監査証跡の表示] ユーティリティを使用して表示できます。[監査用 ASCII ファイル] オプションで選択された監査ファイルに加えて SCE.MDB 監査ファイルが作成されます。詳しくは、13 ページの「監査ファイル」を参照してください。

MDB 監査モードでは、期間でソートされたデータ種別ごとに 1 つのデータベースファイルが作成されます。このデータベースは、Hyperion Enterprise 強化標準レポートおよび SCE 監査ビューア画面で問い合わせるためのものです。性能の理由により、フィールドには ID ではなく署名が含まれており、Microsoft Access では直接表示できません。

sce.mdb ファイルには必ず、現在の連結結果に寄与しているレコードがすべて含まれています。例えば、影響のあった連結の後でも、すべてのデータを連結したかのように、その連結のすべてのレコードが保存されます。これにより連結全体の記録が保存されます。

注： sce.mdb ファイルは、アプリケーションの各データサブディレクトリに保存されます。SQL アプリケーションの場合は、sce.mdb ファイルと事前トランザクションファイル用に @APP\DATA\CAT ディレクトリが作成されます。そのため、Hyperion Enterprise で @APP\DATA\CAT ディレクトリの読み取りおよび書き込みができるように、正しいアクセス権が設定されていることを確認する必要があります。RDBMS バックアップと一緒にこのディレクトリをバックアップしてください。

sce.mdb ファイルには次のフィールドがあります。

- ルール
- 配賦先親
- 配賦元エンティティ
- 配賦先エンティティ
- 配賦元勘定科目
- 配賦先勘定科目
- 配賦先 DSM 表
- 値

▶ 換算の詳細を保存するには、次の手順に従います。

- 1 [SCE 管理] ウィンドウで [グローバルの編集] を選択し、[一般] タブを選択します。
- 2 [詳細の保存] を選択します。
- 3 次のオプションを 1 つまたは複数選択します。
 - 換算トランザクション詳細を保存するには、[換算] を選択します。
 - 比率トランザクション詳細を保存するには、[比率] を選択します。
 - 消去トランザクション詳細を保存するには、[消去] を選択します。
- 4 [OK] をクリックします。

四捨五入設定の指定

処理済みの SCE トランザクションが特定の桁数または小数点以下の桁数に四捨五入されるようにするには、四捨五入の設定を指定します。ゼロより大きな値を入力すると、システムは指定の桁数に四捨五入します。ゼロより小さな値を入力すると、システムは小数点以下の指定の桁数に四捨五入します。例えば、値が 5 の場合は、1,246,000 が 1,200,000 に四捨五入されます。値が -5 の場合は、0.1284395 が 0.12844 に四捨五入されます。0 を指定すると整数に四捨五入されます。

▶ 四捨五入設定を指定するには、次の手順に従います。

- 1 [SCE 管理] ウィンドウで [グローバルの編集] を選択し、[一般] タブを選択します。
- 2 [四捨五入] を選択します。
- 3 [四捨五入する桁数] テキストボックスで四捨五入の値を指定します。
 - 処理済みの SCE トランザクションを指定の桁数に四捨五入するには、ゼロより大きな整数を入力します。
 - 処理済みの SCE トランザクションを小数点以下の指定の桁数に四捨五入するには、ゼロより小さな整数を入力します。
- 4 [OK] をクリックします。

為替レート勘定科目の定義

通貨換算に使う為替レートをどの勘定科目に保存するかを定義する必要があります。図 6 に示すように、これらの勘定科目は、SCE 管理モジュールのグローバル設定ウィンドウの [レート] タブで指定します。

図 6 グローバル設定ウィンドウの [レート] タブ

	...for Parent	...for Dependents
Account for Average Rate	AVERAGE	AVERAGE
Account for Closing Rate	CLORATE	CLORATE
Account for Prior Average Rate		
Account for Prior Closing Rate		

親と子に対して、異なる平均レート勘定科目と期末レート勘定科目を設定できます。これにより、SCE では、グローバルエンティティではなく、データ表の各エンティティのレートを読み取ることができます。これは、子のレートに使われた勘定科目がグローバル勘定科目ではない場合、通貨が同じであっても子によって異なるレートが含まれていることがあるため、重要なことです。

また、今期に使用されている勘定科目以外の勘定科目から、前期のレートを取り出さなければならない場合があります。例えば、新しく獲得した子会社の場合は前期のデータがなく、期首の為替レートは `OpeAveRate` や `OpeCloRate` などの勘定科目の今期のデータに入力されます。この場合は、ウィンドウの 3 行目と 4 行目でこれらの勘定科目を指定できます。これらの勘定科目を指定しない場合や、勘定科目が今期に指定された勘定科目と同じである場合は、前期から値が読み込まれます。勘定科目が指定され、今期に指定された勘定科目と異なっている場合は、今期からその値が読み込まれます。

注： 最初の 2 行を空白にしておくと、2 つの勘定科目の平均レートは `AVERAGE` に、期末レートは `CLORATE` にデフォルト設定されます。Hyperion Enterprise アプリケーションのデフォルト設定を使用するには、手動で入力する必要があります。

換算レート勘定科目を定義して使用するときは、`@CUR` キーワードを使用できます。これは、データの換算先通貨によって異なる為替レート表を使用する場合に便利です。SCE では、換算先通貨に基づいて、為替レートに異なる勘定科目を使用することを動的に決定できます。

例えば、SCE グローバル設定で平均レート勘定科目を `AVG_RATE_@CUR` として定義し、米ドル（通貨 USD）でデータを親に換算するとします。SCE では、換算時に `AVG_RATE_USD` という勘定科目のレートを使用します。特定の勘定科目に使用される為替レートは、配賦先勘定科目の通貨と換算レートによって変わります。

▶ 為替レート勘定科目を定義するには、次の手順に従います。

- 1 [SCE 管理] ウィンドウで [グローバルの編集] を選択し、[レート] タブを選択します。
- 2 勘定科目名を入力するか、セルをダブルクリックして使用する勘定科目を選択します。

ヒント： 親と子に異なるデータを入力することもできます。

- 3 [OK] をクリックします。

キーワードの定義

キーワードは SCE ルールおよび関数でプレースホルダとして使用される文字列です。内部キーワードとは、SCE ルールまたは関数で使用するために割り当てる SCE キーワードのことです。外部キーワードとは、Hyperion Enterprise 勘定科目表の対応するテキストのことで、SCE の内部キーワードと関連付けることができます。コンパイル処理中、ルールにおける角括弧 ([]) に囲まれたキーワードへの参照は、それに対応するユーザ定義のテキストに変換されます。例えば、[内部キーワード] 列の RCG は [外部キーワード] 列の RESCONGRP に相当します。RCG は SCE キーワードであり、RESCONGRP は Hyperion Enterprise 勘定科目表で使用される対応するテキストです。図 7 に示すように、キーワードはグローバル設定ウィンドウの [キーワード] タブで作成します。

図 7 グローバル設定ウィンドウの [キーワード] タブ

Internal Keyword	External Keyword
RCG	RESCONGRP
RCM	RESCONMIN

SCE キーワードは、個々の顧客が独自の勘定科目表ラベル作成ルールを使用できるようにすると同時に、会社間でアプリケーションデザインを標準化するために、主にオラクル社のコンサルタントによって使用されます。キーワード、ルールお

よび関数について詳しくは、[39 ページの「SCE ルール」](#) および [29 ページの「SCE かんすう」](#) を参照してください。

- ▶ キーワードを定義するには、次の手順に従います。
- 1 [SCE 管理] ウィンドウで [グローバルの編集] を選択し、[キーワード] タブを選択します。
- 2 [内部キーワード] 列に、SCE キーワードを入力します。
- 3 [外部キーワード] 列に、Hyperion Enterprise 勘定科目表で使用されるキーワードを入力し、この SCE キーワードに関連付けます。
- 4 [OK] をクリックします。

キーワードの編集

キーワードを定義したら、いつでもキーワードを編集できます。

- ▶ キーワードを編集するには、次の手順に従います。
- 1 [SCE 管理] ウィンドウで [グローバルの編集] を選択し、[キーワード] タブを選択します。
- 2 次のいずれかの操作を行います。
 - 1. キーワードを選択します。
 - 2. [編集] を選択し、次のいずれかのオプションを選択します。
 - 現在の行の上に新しい行を挿入するには、[行の挿入] を選択します。
 - 選択された行を削除するには、[行の削除] を選択します。
 - 表の最後に行を挿入するには、[追加] を選択します。
- 3 [OK] をクリックします。

コードセットの定義


 8 に示すように、SCE コードは、グローバル設定ウィンドウの [コードセット] タブを使用して定義できます。コードセットはロジックまたはエンティティのいずれかに関連する Hyperion Enterprise コードのグループで、SCE ルール内の基準ステートメントで使用されます。基準の使用について詳しくは、[38 ページの「Criteria パラメータのキーワード」](#) を参照してください。

図 8 グローバル設定ウィンドウの [コードセット] タブ

Name of Code Set	Codes in Set
VALIDCODES	HOLDING;GLOBAL

例えば、勘定科目 IC_REC に付属する会社間サブ勘定科目に割り当てられている連結ロジックのコードが GLOBAL または HOLDING の場合は IC_REC の値を消去し、コードが EQUITY の場合は消去しないように指定するとします。図 8 は、基準に一致するすべてのロジックコードが含まれたロジックコードのセットを定義する方法を示しています。

勘定科目 IC_REC に割り当てる SCE ルールでは、[表示基準] セルに次の行を指定します。

Criteria
IMC=VALIDCODES

上記の行は、会社間パートナーのロジックコードが VALIDCODES というコードセットに含まれている場合にのみ、このルールが有効であることを意味します。

▶ コードセットを定義するには、次の手順に従います。

- 1 [SCE 管理] ウィンドウで [グローバルの編集] を選択し、[コードセット] タブを選択します。
- 2 新しいコードセットを作成するには、行を挿入し、コードセットの ID およびロジックコードを指定します。
 - 現在の行の上に新しい行を挿入するには、[編集] メニューから [行の挿入] を選択します。
 - 表の最後に行を挿入するには、[編集] メニューから [行の追加] を選択します。
- 3 コードセットを編集するには、行をハイライトし、コードセットの ID またはロジックコードへの変更を指定します。
- 4 コードセットを削除するには、行をハイライトして [編集] メニューから [削除] を選択します。

- 5 [OK] をクリックします。

フローの定義

期首残高、連結構造の変更、および期末残高のサブ勘定科目がアプリケーションでどのように定義されるかを SCE に指示するためにフローを定義します。これらのサブ勘定科目について詳しくは、60 ページの「変動サブ勘定科目」を参照してください。図 9 に示すように、フローはグローバル設定ウィンドウの [フロー] タブで定義します。

図 9 グローバル設定ウィンドウの [フロー] タブ

	External Name
Opening Balance	OPEC
Change in Consolidation Structure	VAR
Closing Balance	CLO

- フローを定義するには、次の手順に従います。
- 1 [SCE 管理] ウィンドウで [グローバルの編集] を選択し、[フロー] タブを選択します。
 - 2 Hyperion Enterprise での定義に従い、フロー関連のサブ勘定科目の外部 ID を入力します。
 - 3 [OK] をクリックします。

特殊フローの定義

期末残高サブ勘定科目の自動計算を実行するように SCE を設定し、どの変動サブ勘定科目に黙示の逆符号があるかを指定できます。

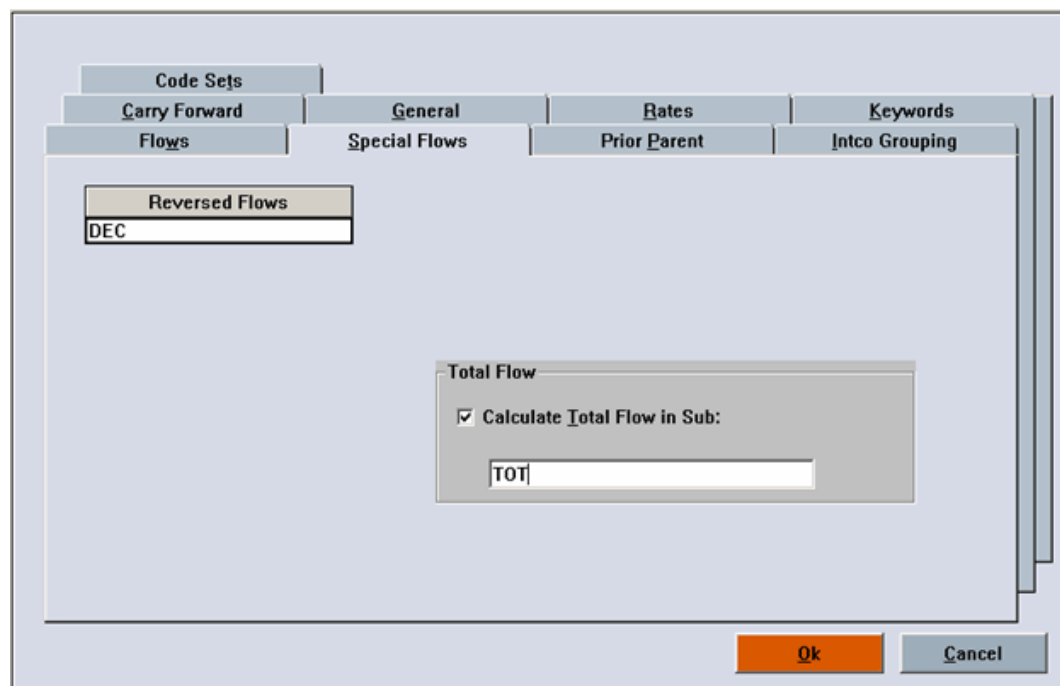
変動サブ勘定科目に黙示の逆符号がある場合、SCE は、合計として指定されているサブ勘定科目に追加する際に、指定サブ勘定科目の符号を逆にします。

SCE が任意の主要勘定科目のサブ勘定科目に対してトランザクションを作成するたびにサブ勘定科目 ID を指定する場合、SCE はこの主要勘定科目に特定のサブ勘

定科目 ID を持つサブ勘定科目が存在するかどうかを自動的にチェックします。そのようなサブ勘定科目が存在する場合、SCE は同じ値のトランザクションを作成します。その後、[逆フロー] フィールドを使って、どのサブ勘定科目で逆トランザクションを作成するかを指定することができます。

図 10 は、逆フローに対してグローバル設定を提供する特殊フロー勘定科目 DEC を示しています。

図 10 グローバル設定ウィンドウの [特殊フロー] タブ



- ▶ 特殊フローを定義するには、次の手順に従います。
- 1 [SCE 管理] ウィンドウで [グローバルの編集] を選択し、[特殊フロー] タブを選択します。
- 2 逆フローに対してグローバル設定を提供する特殊フロー勘定科目を入力します。
- 3 必要に応じて、[サブ勘定科目のフロー合計の計算] を選択し、SCE によって他のフローの合計を累計させる必要のあるサブ勘定科目を入力します。
- 4 [OK] をクリックします。

前期の親の定義

Hyperion Enterprise が連結詳細を使用するすべての状況において、その値は連結されているエンティティではなく、連結のノードに固有です。

このため、エンティティが別の親に移動されている場合は、OPEN_ENTITY、OPEN_TRAN、OPEN_PROP、OPEN_ELIM、OPEN_ADJ、または OPEN_CONT のいずれかの “OPEN” データ表を SCE が検索したときに問題が発生する可能性があります。

この問題を解決するために、指定したデータ種別と期間に対して、現在の親／子ノードと期首親／子ノードを指定できます。

図 11 グローバル設定ウィンドウの「前期の親」タブ

Category	Period	Parent	Entity	Prior Parent	Prior Entity
ACTUAL	1	NTH_AM	MEX	CEN_AM	MEXICO

図 11 は、グローバル設定ウィンドウの「前期の親」タブを示しています。ここでは、ACTUAL データ種別の期間 1 について、親 NTH_AM に連結するエンティティ MEX には、CEN_AM に連結されたエンティティ MEXICO からの前期の DSM データがあることを指定しています。

現在のエンティティとは異なる前期のエンティティ名を指定できます。これにより、異なる前期のエンティティと異なる前期の親からデータを検索できます。

- ▶ 前期の親を定義するには、次の手順に従います。
- 1 [SCE 管理] ウィンドウで [グローバルの編集] を選択し、[前期の親] タブを選択します。
- 2 編集ボックスを選択して値を入力するか、テキストボックスをダブルクリックしてリストから値を選択します。
- 3 [OK] をクリックします。

会社間グループの定義

連結中、複数の会社間トランザクションを 1 つの会社間 ID に統合できます。この機能は、1 つの中間親の連結後、残りの会社間トランザクションのネッティングを最初に入力されたものよりもさらに集約したレベルで行う必要がある場合に便利です。

図 12 は、グローバル設定ウィンドウの「会社間グループ」タブを示しています。

図 12 グローバル設定ウィンドウの「会社間グループ」タブ

Parent	Intco Grouping List
EUROPE	USA_GRP
US	EUR_GRP

例えば、次の連結が発生する多重レベルの連結があるとします。

- ITALY と FRANCE は EUROPE に連結されます。
- CHICAGO と DETROIT は US に連結されます。
- EUROPE と US は WORLD に連結されます。

US の連結の最後に、US エンティティには、次の例のように ITALY および FRANCE との消去されない会社間トランザクションがあります。

```
IC_REC.ITALY100
IC_REC.FRANCE200
IC_PAY.ITALY35
IC_PAY.FRANCE65
```

会社間グループ機能を使用すると、次の例のように、これらのトランザクションを 1 つに集約できます。

```
IC_REC.EUROPE300
IC_PAY.EUROPE100
```

上記の例では次の操作を行います。

- ITALY を EUROPE に変換することを指定するレコードを入力します。
- FRANCE を EUROPE に変換することを指定するレコードを入力します。

図 13 はこれらのエントリを示しています。

図 13 会社間グループの一覧

IG List: EUR_GRP			
Code Sets			
Carry Forward	General	Rates	Keywords
Flows	Special Flows	Prior Parent	Intco Grouping
From Intco		To Intco	
ITALY		EUROPE	
FRANCE		EUROPE	

勘定科目 IC_REC と IC_PAY にルールを割り当てます。図 14 に示すように、ルールでは、会社間サブ勘定科目のフィールドにキーワード @CNV が含まれています。

図 14 2つの勘定科目に割り当てられたルール

Account/Subaccounts	Rules
- IC_REC	CON(,@CNV).-CON(,...ELIM,INB)
- IC_PAY	CON(,@CNV).-CON(,...ELIM,INB)

図 14 のルールでは、配賦元勘定科目の会社間サブ勘定科目 FRANCE および ITALY を配賦先勘定科目のサブ勘定科目 EUROPE に変換します。

注： 配賦元サブ勘定科目が変換表ない場合は、配賦先勘定科目にそのまま残ります。つまり、表の内容は、変換が必要なサブ勘定科目に制限されます。

- ▶ 会社間グループを定義するには、次の手順に従います。
 - 1 [SCE 管理] ウィンドウで [グローバルの編集] を選択し、[会社間グループ] タブを選択します。
 - 2 会社間グループの一覧を該当する親に割り当てます。
 - 3 [OK] をクリックします。

会社間グループの編集

会社間グループを定義したら、一覧を編集する必要があります。これにより、親ごとに異なった一覧を作成できます。

- ▶ 会社間グループを編集するには、次の手順に従います。
 - 1 [SCE 管理] ウィンドウで [グローバルの編集] を選択し、[会社間グループ] タブを選択します。
 - 2 [編集] メニューから [行の挿入] を選択します。
 - 3 親の ID を入力するか、セルをダブルクリックして、リストから親を選択します。
 - 4 会社間グループの表の名前を入力します。

- 5 表の名前にカーソルを置いて、[編集] メニューから [会社間グループ一覧] を選択します。
- 6 行を挿入し、配賦元会社間エンティティと配賦先会社間エンティティを入力します。
- 7 [編集] メニューから [会社間グループ一覧] を選択します。
- 8 [OK] をクリックします。

次期繰越

図 15 に示すように、グローバル設定ウィンドウの [次期繰越] タブで、次期繰越の処理に使用するサブエンティティの変換表を定義することができます。

図 15 グローバル設定ウィンドウの [次期繰越] タブ

From Subentity(ies)...	To Subentity...
ADJ	INP

例えば、ADJ 期首残高を今期の INP 表に繰り越すときに使用される変換表を設定できます。変換表は3つまで定義できます。各ソースフィールドには、複数対一の関係でカンマで区切られたサブエンティティの範囲を含めることができます。

注： この変換表で定義されないサブエンティティは、次期繰越処理中にスキップされるのではなく、同じサブエンティティに繰り越されます。

▶ 次期繰越変換表を定義するには

- 1 [SCE 管理] ウィンドウで [グローバルの編集] を選択し、[次期繰越] タブを選択します。
- 2 繰り越し元サブエンティティと繰り越し先サブエンティティの ID を入力します。
- 3 [OK] をクリックします。

この章の内容

関数の概要.....	29
TRN 関数.....	29
CON 関数.....	31
CRI 関数と CRIELSE 関数.....	33
SCE 関数のキーワード.....	34

関数の概要

勘定科目値の処理方法を SCE に指示するには、関数を使用します。配賦元勘定科目に割り当てられた SCE 関数を呼び出すたびに、配賦先勘定科目の値が生成される場合があります。この値は、トランザクションと呼ばれ、単一の SCE 関数呼び出しの実行結果に相当します。

SCE では、次の 4 つの関数がサポートされています。

- TRN：換算データ表に書き込まれる換算エントリを生成するために使用されます。
- CON：比率データ表、消去データ表またはパートナーの消去データ表に書き込まれる連結エントリを生成するために使用されます。
- CRI および CRIELSE：関数呼び出しを処理する前に SCE ルールの条件を評価するために使用されます。

CON 関数または TRN 関数を配賦元勘定科目に割り当てると、トランザクションが 1 つ生成されます。CRI 関数と CRIELSE 関数は、これらのトランザクションが生成される条件を定義するために使用されます。

TRN 関数

換算ルールを定義するには、TRN 関数を使用します。TRN 関数を実行すると、その結果は子の換算データ表に書き込まれます。TRN 関数では、次の書式を使用します。

[-] TRN (Major, Sub1, Sub2, Factor, Criteria)

パラメータ	説明
マイナス記号 (-)	値の符号を逆にする記号。
Major	配賦先主要勘定科目の ID。 空白のままにすると、デフォルト値である配賦元主要勘定科目の ID が使用されます。
Sub1	配賦先第 1 レベルサブ勘定科目の ID。 空白のままにすると、デフォルト値である配賦元勘定科目の第 1 レベルサブ勘定科目の ID が使用されます。
Sub2	配賦先第 2 レベルサブ勘定科目の ID。 空白のままにすると、デフォルト値である配賦元勘定科目の第 2 レベルサブ勘定科目の ID が使用されます。
Factor	配賦先の値を生成するために配賦元の値に乗算される係数。 空白のままにすると、デフォルト値である 1 が使用されます。
Criteria	トランザクションを生成するために満たす必要がある条件。 空白のままにすると、トランザクションが生成されます。

TRN 関数の Major、Sub1、Sub2 の各パラメータ

Major、Sub1 および Sub2 の各パラメータには、ID を指定する文字列を含めたり、任意の組み合わせのキーワードを含めたりすることができます。使用可能なキーワードについては、[34 ページの「SCE 関数のキーワード」](#)を参照してください。

TRN 関数の Factor パラメータ

配賦先の値を生成するために配賦元の値に掛け合わせる値を指定するには、Factor パラメータを使用します。LASTPERIOD などの定義済みキーワードを使用して、0.5 などの値を指定したり、値の検索元とする勘定科目を指定したりできます。後者の場合は、#Factor のように、パラメータの前に番号記号 (#) を付けます。Factor パラメータで使用するキーワードについては、[34 ページの「SCE 関数のキーワード」](#)を参照してください。

乗算オペランド (*) または除算オペランド (/) を使用すると、任意の数の係数を組み合わせることができます。オペランドの前後にスペースを入力しないでください。

係数として指定された主要勘定科目に通貨サブ表が付属している場合は、その表の相対的な為替レートが係数として使用されます。

TRN 関数の Criteria パラメータ

トランザクションを生成するために満たす必要がある条件を入力するには、Criteria パラメータを使用します。Criteria パラメータには、DEP などのキーワードを含め

たり、チェックする値が含まれている勘定科目の ID を含めたりできます。後者の場合は、#Criteria のように、パラメータの前に番号記号 (#) を付けます。Criteria パラメータで使用するキーワードについては、34 ページの「SCE 関数のキーワード」を参照してください。

Criteria パラメータには、キーワードや勘定科目 ID を任意に組み合わせて、論理オペランド AND、OR および NOT で区切ったものを含めることもできます。

評価する条件を割り当てると、“ゼロと等しくない” (<>0) という条件がデフォルトで想定されます。例えば、#100 を割り当てた場合は、#100<>0 として認識されます。また、より小さい (<)、より大きい (>)、等しい (=) の各オペランドも、絶対値、勘定科目または有効な係数の前に付けて使用することができます。プラス記号 (+)、マイナス記号 (-) およびかっこ (()) はサポートされていません。

注： オペランドの前後には空白スペースを残さないでください。

2 つの例を示します。

#100>#200
PCON=1

最初の例では、勘定科目 100 が勘定科目 200 より大きくないと、トランザクションが生成されません。2 番目の例では、連結比率が 1 と等しくないと、トランザクションが生成されません。

表 2 に TRN 関数の例を示します。

表 2 TRN 関数の例

TRN 関数呼び出しの例						説明
Rule/Function	Major	Sub 1	Sub 2	Factor	Criteria	換算レート 1 を使用して Employees 勘定科目を換算します。
TRN	EMPLOYEES					
Rule/Function	Major	Sub 1	Sub 2	Factor	Criteria	期末レートを使用して Cash 勘定科目を換算します。
TRN	CASH			CLO		
Rule/Function	Major	Sub 1	Sub 2	Factor	Criteria	平均レートを使用して Sales 勘定科目を換算します。
TRN	SALES			AVE		

CON 関数

CON 関数は、連結ルールを定義するために使用されます。CON 関数では、次の書式を使用します。

[-] CON (Major, Sub1, Sub2, Factor, DSM, Criteria)

パラメータ	説明
マイナス記号 (-)	値の符号を逆にする記号。
Major	配賦先主要勘定科目の ID。空白のままにすると、デフォルト値である配賦元主要勘定科目の ID が使用されます。
Sub1	配賦先第 1 レベルサブ勘定科目の ID。空白のままにすると、デフォルト値である配賦元勘定科目の第 1 レベルサブ勘定科目の ID が使用されます。
Sub2	配賦先第 2 レベルサブ勘定科目の ID。空白のままにすると、デフォルト値である配賦元勘定科目の第 2 レベルサブ勘定科目の ID が使用されます。
Factor	配賦先の値を生成するために配賦元の値に乗算される係数。空白のままにすると、デフォルト値である連結比率が使用されます。
DSM	配賦先の値を書き込むデータ表。有効なパラメータは PROP、ELIM または PELIM です。空白のままにすると、デフォルト値である PROP が使用されます。
Criteria	トランザクションを生成するために満たす必要がある条件。空白のままにすると、トランザクションが生成されます。

CON 関数の Major、Sub1、Sub2 の各パラメータ

Major、Sub1 および Sub2 の各パラメータには、ID を指定する文字列を含めたり、任意の組み合わせのキーワードを含めたりすることができます。使用可能なキーワードについては、[34 ページの「SCE 関数のキーワード」](#)を参照してください。

CON 関数の Factor パラメータ

配賦先の値を生成するために配賦元の値に掛け合わせる値を指定するには、Factor パラメータを使用します。LASTPERIOD などの定義済みキーワードを使用して、0.5 などの値を指定したり、値の検索元とする勘定科目を指定したりできます。後者の場合は、#Factor のように、パラメータの前に番号記号 (#) を付けます。Factor パラメータで使用するキーワードについては、[34 ページの「SCE 関数のキーワード」](#)を参照してください。

乗算オペランド (*) または除算オペランド (/) を使用すると、任意の数の係数を組み合わせることができます。オペランドの前後にスペースを入力しないでください。

CON 関数の Criteria パラメータ

トランザクションを生成するために満たす必要がある条件を入力するには、Criteria パラメータを使用します。Criteria パラメータには、DEP などのキーワードを含めたり、チェックする値が含まれている勘定科目の ID を含めたりできます。後者の場合は、#Criteria のように、パラメータの前に番号記号 (#) を付けます。Criteria パラメータで使用するキーワードについては、[34 ページの「SCE 関数のキーワード」](#)を参照してください。

Criteria パラメータには、キーワードや勘定科目 ID を任意に組み合わせて、論理オペランド AND、OR および NOT で区切ったものを含めることもできます。評価する条件を割り当てると、“ゼロと等しくない” (<>0) という条件がデフォルトで想定されます。例えば、#100 を割り当てた場合は、#100<>0 として認識されます。また、より小さい (<)、より大きい (>)、等しい (=) の各オペランドも、絶対値、勘定科目または有効な係数の前に付けて使用することができます。プラス記号 (+)、マイナス記号 (-) およびかっこ (()) はサポートされていません。

注： オペランドの前後には空白スペースを残さないでください。

2 つの例を示します。

#100>#200
PCON=1

最初の例では、勘定科目 100 が勘定科目 200 より大きくないと、トランザクションが生成されません。2 番目の例では、連結比率が 1 と等しくないと、トランザクションが生成されません。

表 3 に CON 関数の例を示します。

表 3 CON 関数の例

CON 関数呼び出しの例							説明
Rule/Function	Major	Sub 1	Sub 2	Factor	DSM Table	Criteria	係数 1 を使用して Employees 勘定科目を連結します。
CON	EMPLOYEES			1			
Rule/Function	Major	Sub 1	Sub 2	Factor	DSM Table	Criteria	システムのすべてのデフォルト値を使用して Cash 勘定科目を連結します。
CON	CASH						

CRI 関数と CRIELSE 関数

CRI 関数と CRIELSE 関数を使用すると、関数呼び出しを処理する前に SCE ルールの条件を評価できます。CRI 関数では、SCE ルールで CRI 関数に続いて実行される呼び出しが評価されます。CRI 関数では、Criteria パラメータしか必要となりません。条件が満たされている場合は、ルール内の CRI に続く関数が処理されます。条件が満たされていない場合、関数は無視されます。CRIELSE 関数を CRI 関数の代わりに使用すると、最初の条件が満たされていない場合に 2 番目の条件を評価できます。

次の例では、最初の条件が満たされている場合（データ種別 = Actual）、CON 命令の最初のセットが実行されます。最初の条件が満たされておらず、別の条件が満たされている場合（データ種別 = Budget など）は、別の CON 命令が実行されます。そのどちらにも該当しない場合（CRIELSE にパラメータがない）は、CON 命令の最後のセットが実行されます。

図 16 例

Translation	Consolidation						
	Rule/Function	Major	Sub 1	Sub 2	Factor	DSM Table	Criteria
-	OPEN_ELIM						
	CRI						CAT=ACTUAL
	CON	@P1	[DPE]	@P3	1	ELIM	
	-CON	@P1	[NIP]	@P3	1	ELIM	
	CON	@P2	[NIP]	@P3	1	ELIM	
	-CON	@P2	[VAR]	@P3	1	ELIM	
	CRIELSE						CAT=BUDGET
	CON	@P1	[DPE]	@P4	1	ELIM	
	-CON	@P1	[VAR]	@P4	1	ELIM	
	CRIELSE						
	-CON					ELIM	
	CON	@P1	@P3			ELIM	

SCE 条件の評価が後続のルールやネストされたルールにまたがることはありませんので、条件の終了は常に暗黙に設定されます。条件の終了を暗黙に設定すると、複数のルールをネストまたは結合することにより、条件評価の終了部をルール内の任意の場所に配置することができます。

次の@RULE_A の例では、END_CRI（条件の終了）関数は存在しません。

@RULE_A

```
CRI (CAT=ACTUAL
CON
-CON ( , , , , ELIM)
END_CRI
-CON ( , , , , PELIM)
```

条件の終了関数をシミュレートするには、次の例に示すように、@RULE_A を別々のルールに分割します。

@RULE_1

```
CRI (CAT=ACTUAL
CON
-CON ( , , , , ELIM)
```

@RULE_2

```
-CON ( , , , , PELIM)
```

次に、@RULE_A を使用して両方のルールを呼び出すと、@RULE_2 で呼び出される関数が@RULE_1 の条件に含まれなくなります。

@RULE_A

```
@RULE_1
@RULE_2
```

SCE ルールについては、[第 3 章「SCE ルール」](#) を参照してください。

SCE 関数のキーワード

キーワードは次のパラメータで使用されます。

- CON と TRN の Major、Sub1、Sub2 の各パラメータ

- TRN の Factor パラメータ
- CON の Factor パラメータ
- CON、TRN および CRI の Criteria パラメータ

Major、Sub1、Sub2 パラメータのキーワード

表 4 は、CON と TRN の Major、Sub1 および Sub2 の各パラメータを示したものです。これらのキーワードには、配賦先勘定科目の ID を指定する文字列が含まれています。

表 4 Major、Sub1、Sub2 パラメータのキーワード

キーワード	説明
@ACC	配賦元勘定科目の完全 ID。
@CNV	会社間グループのグローバル設定で指定された会社間 ID。
@CUR	配賦先勘定科目の通貨。
@HOL	連結される親の持株会社の ID。持株会社が見つからない場合は、エラーが生成され、連結は中止されます。
@MAJ	配賦元主要勘定科目の ID。
@NAM	現在のエンティティの ID。但し、サブエンティティ拡張がある場合はそれを除きます。
@NUL	デフォルト値を上書きするヌルパラメータ。このパラメータは、Sub1 と Sub2 の勘定科目でしか使用できません。
@SUB1	配賦元勘定科目の第 1 レベルサブ勘定科目の ID。
@SUB2	配賦元勘定科目の第 2 レベルサブ勘定科目の ID。

TRN の Factor パラメータで使用されるキーワード

表 5 は、TRN の Factor パラメータで使用されるキーワードを示したものです。各キーワードは、乗算する値を指定します。

表 5 TRN の Factor パラメータで使用されるキーワード

キーワード	説明
AVE	平均レート。
AVE_1	前期の平均レート。
AVEAVE_1	平均レートから前期の平均レートを減算したもの。
CLO	期末レート。
CLO_1	前期の期末レート。

キーワード	説明
CLOAVE	期末レートから平均レートを減算したもの。
CLOAVE_1	期末レートから前期の平均レートを減算したもの。
CLO_1AVE_1	前期の期末レートから前期の平均レートを減算したもの。
CLOCLO_1	期末レートから前期の期末レートを減算したもの。
CLOWAO	期末レートから加重平均した期首レートを減算したもの。
CLOWAO#Maj	渡された主要勘定科目の#maj を使用して期末レートから加重平均した期首レートを減算したもの。
PER	連結対象である今期の値。
WAO	加重平均した期首レート。
WAO#Maj	渡された主要勘定科目の#maj を使用して加重平均した期首レート。

WAO 比率の内部計算式は次のとおりです。

WAO = OpenTran of #Maj.CLO.Intco / #Maj.OPE.Intco

パラメータ	説明
OpenTran of	換算データ ファイルの前年値。
Maj	主要配賦元勘定科目。
CLO	期末残高サブ勘定科目。
OPE	期首残高サブ勘定科目。
Intco	パートナー（ある場合）。

WAO 比率に別の書式を使用すると、配賦元勘定科目の為替差の履歴が含まれている勘定科目から換算済みの前期期末残高を読み取ることができます。この書式 WAO#Maj2 は、次のように使用されます（Maj2 は主要勘定科目 ID）。

WAO#Maj2 = (OpenTran of #Maj.CLO.Intco - OpenTran of #Maj2.CLO.Intco) / #Maj.OPE.Intco

パラメータ	説明
OpenTran of	換算データ ファイルの前年値。
Maj	主要配賦元勘定科目。
CLO	期末残高サブ勘定科目。
Intco	パートナー（ある場合）。
Maj2	渡された主要勘定科目。
OPE	期首残高サブ勘定科目。

ゼロによる除算が発生した場合は、比率 AVE と等しい平均レートが算出されます。

CON の Factor パラメータで使用するキーワード

表 6 は、CON の Factor パラメータで使用するキーワードを示したものです。各キーワードは、乗算する値を指定します。

表 6 CON の Factor パラメータで使用するキーワード

キーワード	説明
IPCON	会社間連結比率。
IPCON_1	前期の会社間連結比率。
IPMIN	会社間連結比率から会社間出資比率を減算したもの。
IPMIN_1	前期の会社間連結比率から前期の会社間出資比率を減算したもの。
IPOWN	会社間出資比率。
IPOWN_1	前期の会社間出資比率。
MIN	連結比率から会社間連結比率を減算したもの。
PCIPC	連結比率に会社間連結比率を乗算したもの。
PCIPM	連結比率に会社間連結比率を掛け合わせ、会社間出資比率を減算したもの。
PCIPO	連結比率に会社間出資比率を乗算したもの。
PCON	連結比率。
PCON_1	前期の連結比率。
PER	連結対象である今期の値。
PMIN	連結比率から出資比率を減算したもの。
PMIN%	1 から出資比率を減算し、連結比率で除算したもの。
PMIN_1	前期の連結比率から前期の出資比率を減算したもの。
PMIPC	連結比率から出資比率を減算し、会社間連結比率を乗算したもの。
POIPC	出資比率に会社間連結比率を乗算したもの。
POWN	出資比率。
POWN%	出資比率を連結比率で除算したもの。
POWN_1	前期の出資比率。
VIPCON	会社間連結比率から前期の会社間連結比率を減算したもの。
VIPMIN	会社間連結比率から会社間出資比率、前期の会社間連結比率、前期の会社間出資比率を減算したもの。

キーワード	説明
VIPOWN	会社間出資比率から前期の会社間出資比率を減算したもの。
VPCON	連結比率から前期の連結比率を減算したもの。
VPCON%	連結比率を前期の親で除算し、1 を減算したもの。
VPMIN	連結比率から出資比率、前期の連結比率、前期の出資比率を減算したもの。
VPOWN	出資比率から前期の出資比率を減算したもの。

Criteria パラメータのキーワード

表 7 は、CON、TRN および CRI の各関数の Criteria パラメータで使用されるキーワードを示したものです。各キーワードは、トランザクションを有効にするために満たす必要がある条件を指定します。コードセットは有効なコードのグループです。有効なコードセットは、SCE グローバル設定を定義するときに定義します。詳しくは、20 ページの「コードセットの定義」を参照してください。

注： キーワードをワイルドカードのアスタリスクとともに使用すると、有効なコードのグループを表すことができます。

表 7 Criteria パラメータのキーワード

キーワード	説明
CAT	一連のカンマ区切りデータ種別 ID。
DEP	パートナーは、現在のエンティティの子です。
EC*	現在の子のエンティティコードが種類として指定されます。
EC_1*	今期の現在の子のエンティティコードが種類として指定されます。
IEC*	今期の親のエンティティコードが種類として指定されます。
IEC_1*	前期の親のエンティティコードが種類として指定されます。
IMC*	今期の親のロジックコードが種類として指定されます。
IMC_1*	前期の親のロジックコードが種類として指定されます。
INB	パートナーは、組織のどのレベルでも同じ分岐に存在します。
MC*	現在の子のロジックコードが種類として指定されます。
MC_1*	今期の現在の子のロジックコードが種類として指定されます。

*これらのキーワードをワイルドカードのアスタリスクとともに使用すると、有効なコードのグループを表すことができます。

3

SCEルール

この章の内容

SCE ルールの概要	39
ルールのパラメータ	40
負のルール	41
ネストされたルール	41
ルールの定義	42
ルールプロパティの編集	43
デフォルトの SCE ルールの定義	43

SCE ルールの概要

SCE ルールは、SCE 関数呼び出しを組み合わせたものです。SCE ルールを使用すると、SCE ロジックを簡略化し、読みやすくすることができます。例えば、複数の関数を 1 つの勘定科目に割り当てることができます。ロジックについて詳しくは、第 4 章「SCE ロジック」を参照してください。

例えば、Credit-Receiveables または Debit Plug 勘定科目の消去などの複数のトランザクションを生成するには、図 17 に示すように、関数 CON を RESERVES に 3 回割り当てて、3 つのトランザクションを生成できます。

図 17 RESERVES に割り当てられた CON 関数

Account/Subaccounts	Rules
RESERVES	-CON(,,,ELIM),CON(RESCONGFX,,,POWN,ELIM),CON(RESCONMFX,,,PMIN,ELIM)

Rule/Function	Major	Sub 1	Sub 2	Factor	DSM Table	Criteria
- CAPI_FX						
-CON					ELIM	
CON	RESCONGFX			POWN	ELIM	
CON	RESCONMFX			PMIN	ELIM	

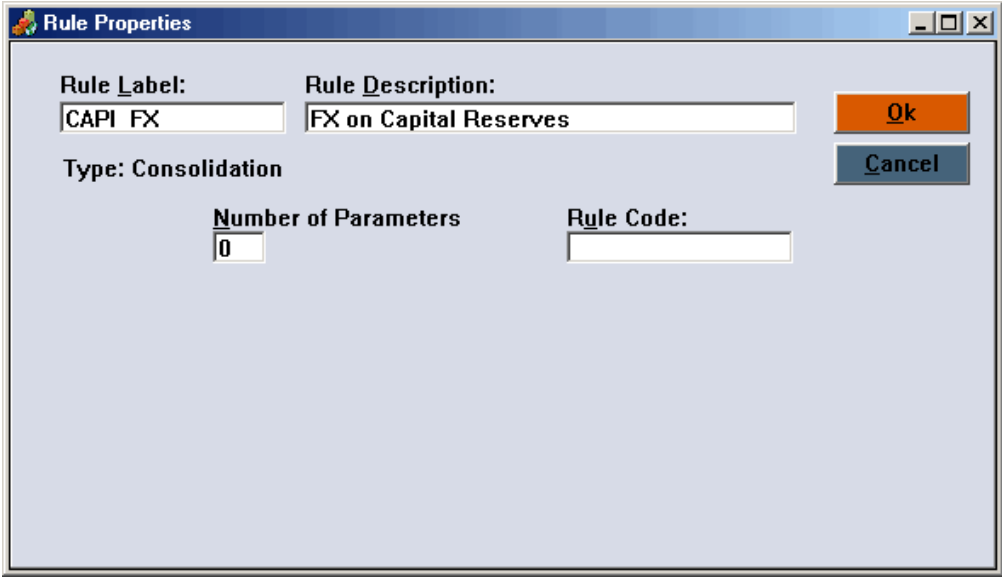
この関数呼び出しの組み合わせは、図 18 に示すように、SCE ルール CAPI_FX を作成し、このルールを RESERVES に割り当てることで簡略化できます。

図 18 RESERVES に割り当てられた CAPI_FX ルール

Account/Subaccounts	Rules
RESERVES	CAPI_FX

図 18 の CAPI_FX ステートメントはルールを参照しています。ルールは図 19 に示すように、[ルールのプロパティ] ダイアログボックスで定義します。

図 19 [ルールのプロパティ] ダイアログボックス



The 'Rule Properties' dialog box is shown with the following fields and values:

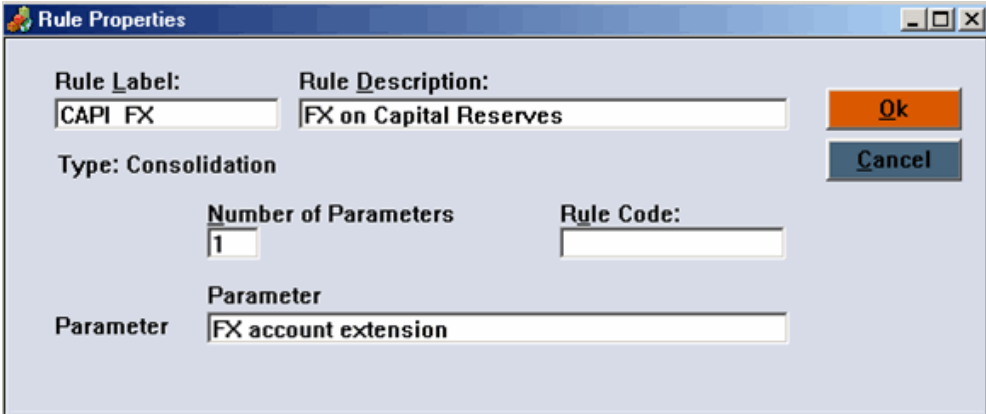
Field	Value
Rule Label:	CAPI FX
Rule Description:	FX on Capital Reserves
Type:	Consolidation
Number of Parameters	0
Rule Code:	

Buttons: Ok, Cancel

ルールのパラメータ

SCE ルールには 6 つまでのパラメータを渡すことができます。パラメータを参照するには、ルールの本文内で @P1 ~ @P6 のキーワードを使用します。SCE では、ルールの計算時にキーワードを渡されたパラメータに置換します。これによって、ルールに柔軟性がもたらされ、ルールを複数の状況で使用できるようになります。例えば、図 20 に示すルールを定義するとします。

図 20 CAPI_FX ルール



The 'Rule Properties' dialog box is shown with the following fields and values:

Field	Value
Rule Label:	CAPI FX
Rule Description:	FX on Capital Reserves
Type:	Consolidation
Number of Parameters	1
Rule Code:	
Parameter	FX account extension

Buttons: Ok, Cancel

このルールを実行すると、図 21 に示すようなステートメントになります。

図 21 CAPI_FX ルールによって生成されたステートメント

Rule/Function	Major	Sub 1	Sub 2	Factor	DSM Table	Criteria
- CAPI_FX						
-CON					ELIM	
CON	RESCONG@P1			POW/N	ELIM	
CON	RESCONM@P1			PMIN	ELIM	

このルールは、図 22 に示すように、FX パラメータを使用して呼び出されます。

図 22 FX パラメータを使用した CAPI_FX ルールの呼び出し

Account/Subaccounts	Rules
RESERVES	@CAPI_FX(FX)

負のルール

SCE 計算式では負のルールを使用して、配賦元の値がルールに渡され、処理される前に、この値の符号を逆にすることができます。負のルールは、先頭にマイナス記号 (-) の付いたルール呼び出しです。これらのルールは現在のルールに関連付けられているすべての関数の符号を逆にするので、正の関数はすべて負になり、負の関数はすべて正になります。

ネストされたルール

ルールは 9 つのレベルまでネストできます。例えば、ルールが別のルールを呼び出し、呼び出されたルールがさらに別のルールを呼び出すといったことを 9 つのレベルまで繰り返すことができます。

例えば、Rule 3 には Rules 1 と Rule 2 が含まれています。Rule 3 が実行されると、図 23 に示すステートメントが作成されます。

図 23 Rule 3 によって作成されたステートメント

Rule/Function	Major	Sub 1	Sub 2	Factor	DSM Table	Criteria
+ RULE 3						
RULE1						
RULE 2						

Rule 1 を実行すると、図 24 に示すステートメントが作成されます。

図 24 Rule 1 によって作成されたステートメント

Rule/Function	Major	Sub 1	Sub 2	Factor	DSM Table	Criteria
- RULE1						
-CON					ELIM	

Rule 2 を実行すると、図 25 に示すステートメントが作成されます。

図 25 Rule 2 によって作成されたステートメント

	Rule/Function	Major	Sub 1	Sub 2	Factor	DSM Table	Criteria
-	RULE 2						
	CON	RCG			POW/N	ELIM	
	CON	RCM			PMIN	ELIM	

ルールの定義

ルールはルールエディタで定義します。ルールは、CON、TRN、CRI、CRIELSE 関数または他のルールを使用して定義された 1 つ以上のステートメントで構成されています。詳しくは、[第 2 章「SCE かんすう」](#)を参照してください。

ルールは、展開モードと縮小モードの両方で表示できます。表示または非表示が可能な列に、ルールを説明するコメントを挿入できます。また、定義したグローバル設定のキーワードを貼り付けたり、既存のルールを別のルールに貼り付けることもできます。

ルールは、連結ルールおよび換算ルールにグループ分けされており、2 つの別々のタブに表示されます。SCE は、換算ルールでは CON 関数が使用されていないことを、および連結ルールでは TRN 関数が使用されていないことを確認します。また、SCE は、換算ルールが連結ルールにネストされていないこと、および連結ルールが換算ルールにネストされていないことも確認します。

パラメータは、配賦先勘定科目とその値を制御します。[表 8](#)に、ルールステートメントのパラメータを示します。

表 8 ルールステートメントのパラメータ

パラメータ	関数	説明
Major	CON、TRN	配賦先主要勘定科目の ID
Sub1	CON、TRN	配賦先第 1 レベルサブ勘定科目の ID
Sub2	CON、TRN	配賦先第 2 レベルサブ勘定科目の ID
Factor	CON、TRN	配賦先の値を生成するために配賦元の値に乗算される係数
DSM Table	CON	配賦先の値を書き込むデータ表
Criteria	CON、TRN、CRI、CRIELSE*	トランザクションを生成するために満たす必要がある条件

*Criteria は、CRI および CRIELSE 関数にのみ有効なパラメータです。

➤ ルールを作成するには、次の手順に従います。

- 1 [SCE 管理] ウィンドウで、[ルールの編集] を選択します。
- 2 [編集] を選択し、次のうちの 1 つを選択して必要な行数を挿入します。
 - 現在の行の上に新しい行を挿入するには、[行の挿入] を選択します。

- 表の最後に行を挿入するには、[行の追加] を選択します。
 - 現在の行を削除するには、[行の削除] を選択します。
- 3 ルールの ID を入力し、[編集] メニューから [ルールヘッダに変換] を選択します。
 - 4 ルールステートメントのパラメータを入力します。パラメータの入力中に [編集] メニューから [ルールの貼り付け] を選択し、ルールに貼り付けます。

ヒント： ルールを定義するときは、図 26 に示すように、ルールの定義を支援する [ルール支援] ウィンドウにアクセスできます。

図 26 [ルール支援] ウィンドウ

ルールプロパティの編集

ルールが定義されたら、ルール ID、説明、ルールコード（監査のために使用）、ルールのパラメータ数、および各パラメータの説明を [ルールのプロパティ] 画面に入力できます。

- ▶ ルールのプロパティを編集する手順は次のとおりです。
- 1 [SCE 管理] ウィンドウで、[ルールの編集] を選択します。
 - 2 [編集] メニューから [ルールのプロパティ] を選択します。
 - 3 ルールのプロパティを指定します。
 - 4 [OK] をクリックします。

デフォルトの SCE ルールの定義

デフォルトの換算ルールまたは連結ルールを勘定科目別またはサブ勘定科目別に定義して、SCE ロジックの保守を大幅に簡略化することができます。[SCE デフォルトルール] 画面は、すべての勘定科目またはサブ勘定科目、あるいは特定の勘定科目またはサブ勘定科目にデフォルトルールを割り当てるために使用します。

デフォルトの連結ルールは連結属性のあるすべての勘定科目に適用されますが、デフォルトの換算ルールは、勘定科目のタイプに基づいて割り当てることができます。また、デフォルトルールを連結勘定科目の特定のサブ勘定科目に割り当てることもできます。これは、各ソースデータ表について指定できます。

注： NODEF および NOENTDEF 関数をロジックを使用することにより、デフォルトルールの割り当てを避けることができます。詳しくは、[52 ページの「デフォルトルールの無視」](#)を参照してください。

- デフォルトの SCE ルールを定義する手順は次のとおりです。
- 1 [SCE 管理] ウィンドウで、[デフォルトルールの編集] を選択します。
- 2 デフォルト換算ルールおよびデフォルト連結ルールを勘定科目またはサブ勘定科目に割り当てます。
- 3 [ファイル] メニューから [保存] を選択します。
- 4 [ファイル] メニューから [閉じる] を選択します。

この章の内容

SCE ロジックの概要	45
例外サブ勘定科目	46
複数サブ勘定科目	46
主要勘定科目	47
換算ロジック	47
連結ロジック	48
ロジックの定義	49
ロジックのテスト	50
ロジックのコンパイル	51
ネストされたロジックの定義	51
デフォルトルールの無視	52

SCE ロジックの概要

SCE ロジックには、勘定科目に割り当てられている指示の一覧が含まれています。Hyperion Enterprise ロジックと SCE ロジックの違いは次のとおりです。

- Hyperion Enterprise ロジックは、計算式を勘定科目に割り当てて、これらの勘定科目に書き込む内容を定義します。Hyperion Enterprise ロジックはデータ種別セクションごとにまとめられています。
- SCE ロジックは、ルールを勘定科目に割り当てて、システムがこれらの勘定科目から値を読み取ったときに生成するトランザクションを定義します。SCE ロジックはセクションごとにまとめられています。これらのセクションは、セクション内の勘定科目の値を読み取る現在のエンティティのデータ表を指定します。

注： SCE トランザクションロジックと SCE 連結ロジックがサポートしているセクションはそれぞれ異なります。各セクションについて詳しくは、[47 ページの「換算ロジック」](#)および[49 ページの「ロジックの定義」](#)を参照してください。

SCE ロジックを使用すると、値が勘定科目から読み込まれるときに生成されるトランザクションを制御できます。システムは次の基本要素で構成されています。

- 例外サブ勘定科目
- 複数サブ勘定科目

- 主要勘定科目
- 連結ロジック
- 換算ロジック

ロジックを定義した後は、実行可能な形式にコンパイルする必要があります。コンパイルされたロジックは、確認およびテストができるようになります。詳しくは、[50 ページの「ロジックのテスト」](#)を参照してください。

例外サブ勘定科目

SCE では、勘定科目のすべてのサブ勘定科目に割り当てられている関数またはルールを実行します。1 つ以上のサブ勘定科目に特殊な処理が必要な場合は、これらのサブ勘定科目を例外サブ勘定科目として取り扱うことができます。

システムが処理する例外は、第 1 レベルサブ勘定科目のみです。すべての第 2 レベルサブ勘定科目は、その第 1 レベルサブ勘定科目または主要勘定科目と同じルールに従う必要があります。[図 27](#) に示すようなロジックがあるとします。

図 27 ロジック例

	Account/Subaccounts	Rules
-	INV	CON,INV(INV,E2)
	FXO	CON,INV_FX(INV,E2)

前述のロジックでは、勘定科目 INV のすべてのサブ勘定科目は、ルール CON および INV(INV,E2)を使用します。但し、サブ勘定科目 FXO だけは、ルール CON および INV_FX(INV,E2)を使用します。サブ勘定科目 FXO に付属している第 2 レベルサブ勘定科目は、FXO に割り当てられているルールに従います。

複数サブ勘定科目

同じセットのルールまたは関数を共有する複数のサブ勘定科目はグループにまとめることができます。個別のサブ勘定科目はカンマ (,) で区切ります。[図 28](#) に示すようなルールがあるとします。

図 28 ルール例

	Account/Subaccount	Rules
-	CASH	DEF
	OPE,FXO,MOV	INV

上図のルールは、CASH のすべてのサブ勘定科目がルール DEF を使用し、例外としてサブ勘定科目 OPE、FXO および MOV はルール INV を使用することを示しています。

主要勘定科目

デフォルトでは、SCE はサブ勘定科目が付属している主要勘定科目の値をスキップします。主要勘定科目を処理し、サブ勘定科目をスキップする場合は、[図 29](#) に示す形式を使用します。

図 29 サブ勘定科目をスキップするための形式

	Account/Subaccounts	Rules
-	INV	
#		INV

上図の形式では、ヌルのデフォルトルールを INV に割り当ててすべてのサブ勘定科目を無視し、INV ルールを特殊勘定科目に割り当てています。SCE では、主要勘定科目自体を示す予約名としてシャープ記号 (#) を使用しています。

第 1 レベルサブ勘定科目のみを処理し、付属している第 2 レベルサブ勘定科目を無視することもできます。これを行うには、[図 30](#) に示すように、サブ勘定科目の先頭にドル記号 (\$) を指定する必要があります。

図 30 第 1 レベルサブ勘定科目のみを処理するための形式

	Account/Subaccounts	Rules
-	INV	DEF
	\$FXD	INV
	VAR	

上図のルールは、サブ勘定科目 FXD がルール INV を使用し、その第 2 レベルサブ勘定科目を無視し (VAR にヌルのルールが付属)、最下位レベルのその他すべてのサブ勘定科目が DEF を使用することを示しています。

換算ロジック

換算ロジックを使用すると、連結時にエンティティまたは下位構造の通貨を換算する方法を決定するルールの集まりを定義できます。Hyperion Enterprise では、換算ロジックのみに対して ID を定義します。SCE で SCE ロジックエディタを使用して、ロジックを指定するテキストを入力します。

[表 9](#) は、換算ロジックに有効なデータ表を示しています。

表 9 換算ロジックのデータ表

データ表	内容
ENTITY	現在のエンティティのデータ
OPEN_ENTITY	前期の現在のエンティティのデータ
OPEN_TRAN	前期の換算データ

SCE の換算ロジックソースファイルの構造は次のとおりです。

[Table] Major, Rules[Exceptions] !Remarks Major, Rules[Exceptions] !Remarks..

変数	説明
Table	各データ表のセクション見出し。
Major	主要勘定科目。
Rules	主要勘定科目のルール。
Exceptions	勘定科目に定義されている例外。
Remarks	勘定科目に定義されているルールまたは例外に関するコメント。

1つのロジックで複数のセクションに対応することができます。テキストエディタを使用する場合は、[図 31](#) に TRN ルールを使用して指定されたロジックが示されています。エンティティおよびそのエンティティの開始換算値に対しては特定の関数が実行されます。詳しくは、[39 ページの「SCE ルール」](#)を参照してください。

図 31 SCE ロジック

	Account/Subaccounts	Rules	Remarks
-	RECLT_I	TRN(...AVE)	
	TOT	TRN(...CLO_1)	
-	INV	TRN(...AVE),TRN(...[FXF],...CLOAVE)	
	OPE	TRN(...CLO_1),TRN(...[OFX],...CLO)	
-	CASH	TRN(...AVE)	
	OPE	TRN(...CLO_1),TRN(...[OFX],...CLO)	

連結ロジック

連結ロジックは、連結時に子エンティティまたは下位構造のデータを親エンティティに集計する方法を決定します。連結ロジックは Hyperion Enterprise で作成し、SCE 管理で使用されるロジックを定義するルールを指定します。

SCE 連結ロジックは、セクションごとにまとめられています。各セクションは、データの読み込み元のソースデータ表を表します。[表 10](#) に、連結ロジックに有効なデータ表を示します。

表 10 連結ロジックのデータ表

データ表	内容
ENTITY	今期の換算データ
OPEN_TRAN	前期の換算データ
OPEN_PROP	前期の比率データ
OPEN_ELIM	前期の消去データ
OPEN_ADJ	前期の親調整
OPEN_CONT	前期の調整後データ

SCE の連結ロジックソースファイルの形式は次のとおりです。

[Table] Major,Rules[Exceptions] !Remarks Major,Rule[Exceptions] !Remarks

変数	説明
Table	各データ表のセクション見出し。
Major	主要勘定科目。
Rules	主要勘定科目のルール。
Exceptions	勘定科目に定義されている例外。
Remarks	勘定科目に定義されているルールまたは例外に関するコメント。

1つのロジックには複数のセクションを作成できます。テキストエディタを使用する場合は、1つのロジックファイル内で1つのセクションを複数回呼び出すことができます。

図 32 に、勘定科目 INV に定義されているルールを示します。

図 32 INV 勘定科目に定義されているルール

	Account/Subaccounts	Rules	Remarks
-	INV	CON,INV([LNK],[RCG],[RCM]),INV	
	OPE	INV_FXR(INV)	
	TOT		

最初の行は、関数 CON が実行され、続いてルール INV が実行されることを示します。INV の最初の 3 つのパラメータは、角かっこで囲まれています。これは、[グローバルの編集] コマンドが選択された場合、定義されているキーワードから値が計算されることを示します。

INV 勘定科目の例外は、OPE サブ勘定科目に対して関数 CON が実行され、続いて INV を使用してルール INV_FXR が実行されることを示します。次の例外は TOT サブ勘定科目ですが、このサブ勘定科目にはルールが割り当てられておらず、実行もされません。

ロジックの定義

ロジックは、主要勘定科目またはサブ勘定科目にルールを割り当てることにより定義します。ルールのある主要勘定科目のみを表示するか、主要勘定科目とサブ勘定科目を表示するか、あるいはルールのある主要勘定科目とサブ勘定科目を表示するかを選択できます。また、ロジックのコメントを表示するかどうかを選択できます。ロジックを作成または編集する場合、キーワードまたはルールを貼り付けることができます。

► ロジックを定義するには、次の手順に従います。

- 1 [SCE 管理] ウィンドウで、[ロジックの編集] を選択します。
- 2 リストからロジックを選択します。
- 3 必要に応じて次の作業を行います。

- 編集するロジックを選択し、右マウスボタンをクリックし、[切り取り]、[コピー]、[貼り付け] または [削除] を選択します。
- 主要勘定科目とサブ勘定科目を入力します。

4 必要に応じて次の作業を行います。

- ルールを追加するには、リストのルールをダブルクリックして選択します。
[ルール支援] ウィンドウで必要な情報を入力し、[OK] をクリックします。
- ロジックで使用するルールを作成するには、[編集] メニューから [ルール] を選択します。
- ルールを貼り付けるには、[編集] メニューから [ルールの貼り付け] を選択し、一覧からルールを選択して [OK] をクリックします。

注： [ルール支援] ウィンドウでは、ルールをロジックに追加する前にルールパラメータを修正できます。その後、パラメータの書式がロジックに挿入されます。

- 5 ロジックの定義を終了後、それを保存してコンパイルします。詳しくは、[51 ページの「ロジックのコンパイル」](#)を参照してください。
- 6 [テスト] を選択して、発生するエラーを訂正します。詳しくは、[50 ページの「ロジックのテスト」](#)を参照してください。
- 7 [ファイル] メニューから [保存] を選択します。
- 8 [ファイル] メニューから [閉じる] を選択します。

ロジックのテスト

ロジックを定義後、それをテストしてエラーがないことを確認する必要があります。ロジックのテストは、ロジックとデータセクションのステートメントごとに行います。

例えば、エンティティデータセクションの連結ロジックの現金勘定科目に割り当てられたルールをテストする場合、連結ロジックとエンティティデータセクションを選択します。現金勘定科目の行にカーソルを置いてテストを実行します。

[値] テキストボックスに現金勘定科目の値の入ったテストフォームが表示されます。[ロジックの編集] ダイアログボックスへ戻らずに、ロジック、セクション、勘定科目、および値のデータの視点の要素を手動で修正できます。テストを再び実行すると、生成されたすべてのトランザクションが、それを生成した関数とともにウィンドウの下部のスプレッドシートに表示されます。

➤ ロジックをテストするには、次の手順に従います。

- 1 [SCE 管理] モジュールで、[ロジックの編集] を選択します。
- 2 テストするロジックとデータセクションを選択します。
- 3 勘定科目の行を選択してから [テスト] を選択します。
- 4 他のステートメントをテストするには、データの視点、ロジック、セクション、勘定科目、値などを手動で修正してから [テスト] を選択します。
- 5 [ファイル] メニューから [保存] を選択します。

6 [ファイル] メニューから [閉じる] を選択します。

ロジックのコンパイル

SCE ロジックおよびルールは、元のテキスト形式 (.TXT ファイル) から実行可能なバージョン (.SCE ファイル) にコンパイルし直す必要があります。このタスクにより、すべての SCE ロジックと SCE ルールの定義ファイルが同時に再コンパイルされます。

次の項目のうち 1 つまたは複数を追加、変更、あるいは削除した場合は、再コンパイルが必要です。

- SCE ルール
- SCE ロジック
- 勘定科目表の勘定科目

▶ ロジックをコンパイルするには、次の手順に従います。

- 1 [SCE 管理] ウィンドウで、[ロジックのコンパイル] を選択します。
- 2 コンパイルするロジックを 1 つまたは複数選択します。
- 3 [OK] をクリックします。

ヒント： ロジックを定義している場合は、[ロジックの編集] ウィンドウ内でもコンパイルできます。

ネストされたロジックの定義

SCE では、ネストされたロジックの割り当てをサポートするようになりました。ネストされたロジックとは、別のロジックを呼び出すロジックのことで、呼び出されたロジックはさらに別のロジックを呼び出すことができます。

ネストされたロジックは、ロジックのコンパイル時に呼び出し元のロジックと結合されます。このため、ネストされたロジックを変更した場合は、このロジックを呼び出すすべてのロジックをコンパイルし直す必要があります。

呼び出し元のロジックの属性はすべて、ネストされたロジックの属性よりも優先されます。

どのような状況でも、ロジックがロジック自体を呼び出すことはできません。循環呼び出しは使用できません。例えば、A が B を呼び出し、B が C を呼び出し、C が A を呼び出すとします。このような循環呼び出しは、コンパイル時にエラーになります。

▶ ネストされたロジックを定義するには、次の手順に従います。

- 1 [SCE ロジックエディタ] で、[編集] メニューから [使用済みロジック] を選択します。
- 2 リストからロジックを選択します。
- 3 [OK] をクリックします。

デフォルトルールの無視

[SCE ロジックエディタ] の [デフォルトルールの無視] オプションにより、すべての勘定科目または例外勘定科目でデフォルトルールを無視できます。

特定の勘定科目またはサブ勘定科目にデフォルトルールが割り当てられないようにすることができます。また、ロジック全体について、デフォルトルールが割り当てられないようにすることもできます。

さらに、[エンティティ] タブ以外のすべてのタブで指定された全例外サブ勘定科目のデフォルトのルールを維持することもできます。[SCE ロジックエディタ] ウィンドウの [エンティティ] タブで指定された主要勘定科目と例外サブ勘定科目に割り当てられているすべてのデフォルトが無視されます。

NODEF 関数をロジックの主要勘定科目に直接追加することにより、デフォルトルールがロジック全体に割り当てられないようにすることができます。

NOENTDEF をロジックの主要勘定科目または例外サブ勘定科目に追加することにより、[デフォルトルール] ウィンドウの [エンティティ] タブで割り当てられているすべてのデフォルトルールをスキップすることができます。その他のすべてのデフォルトルールは割り当てられます。

➤ デフォルトルールを無視するには、次の手順に従います。

- 1 [SCE ロジックエディタ] で、[編集] メニューから [デフォルトルールの無視] を選択します。
- 2 次のいずれかの操作を行います。
 - 割り当てられたデフォルトルールを使うには、[デフォルトルールの使用] を選択します。
 - [エンティティ] タブ以外のすべてのタブで指定された全例外サブ勘定科目のデフォルトルールを維持するには、[標準データのデフォルトルールのみスキップ] を選択します。
 - デフォルトルールの使用を避けるためには、[すべてのデフォルトルールをスキップ] を選択します。
- 3 [OK] をクリックします。

この章の内容

データの視点の設定	53
期末残高の次期繰越	54
子の連結詳細データの抽出	54
転記済みトランザクションの表示	56

データの視点の設定

SCE 要素のデータの視点を設定するには、SCE 管理を使用します。SCE モジュールを終了せずに、別のアプリケーションでタスクを実行するためにアプリケーションを変更できます。またそのアプリケーション、データ種別、および期間内で親を変更することもできます。SCE では、連結詳細データを抽出するために、データ種別および期間とともに現在のアプリケーションの親を使用します。

注： データ種別を変更する場合、レートを更新するためにデータの視点で期間を選択する必要があります。

- ▶ データの視点を設定するには、次のいずれかの操作を行います。
 - アプリケーションを変更するには、[アプリケーション] を選択して、別のアプリケーションにログオンします。
 - データ種別を変更するには、[データ種別] を選択し、リストからデータ種別を選択し、[OK] をクリックします。データ種別を変更する場合は、日付も選択する必要があります。
 - 日付を変更するには、[日付] を選択します。データ種別を選択し、期間を選択し、[OK] をクリックします。
 - 親を変更するには次の操作を行います。
 1. [親] を選択します。
 2. リストのエンティティをフィルタするには、[親]、[最下位エンティティ]、[サブエンティティ] または [親が未定義] を選択します。
 3. リストから親を選択して [OK] をクリックします。

期末残高の次期繰越

前期の期末残高を今期の期首残高に繰越すには、期首および期末残高サブ勘定科目の ID がシステムで必要になります。これら 2 つのサブ勘定科目の ID を定義するには、適切な貸借対照表勘定科目にこれらのサブ勘定科目の期首および期末残高を含む第 1 レベルのサブ勘定科目表を割り当てるようにアプリケーションを設定する必要があります。

システムは、今期から前期にリンクされているデータ種別を照合することにより、特定の親と前期のデータ種別の期首残高を現在のデータ種別および期間に繰越します。期首および期末残高は、フローの定義の際に定義します。詳しくは、[22 ページの「フローの定義」](#)を参照してください。

システムは処理中、前期の期末残高を今期の期首残高に移動します。前のデータ種別から現在のデータ種別へ情報を移動する際、入力ロジックを実行するように選択できます。

次期繰越には、まずデータの視点を、更新するデータ種別と期間、および親に設定し、この親の配下のエンティティをすべてスキャンする必要があります。SCE では、前のデータ種別および前期から、現在のデータ種別および今期でも有効な最下位エンティティとして存在するすべての最下位エンティティがスキャンされます。期末残高について検索されたすべてのレコードが今期の期首残高に書き込まれます。第 2 レベルのサブ勘定科目も同様に処理されます。

注： この処理には、すべての DSM セクション内の親の調整が含まれます。期首に仕訳帳が転記されている場合、変更されたエンティティは読み込まれません。

最下位エンティティがサブエンティティである場合は、それらのサブエンティティの変換表を定義できます。この変換表を次期繰越の処理中に使うことにより、1 つ以上のサブエンティティの期末残高を異なるサブエンティティの期首残高にすることができます。例えば、調整サブエンティティの期末残高を今期の入力サブエンティティに繰り越すことができます。

注： 前期の最下位エンティティのリストに 2 回出現するエンティティがある場合、このエンティティの値は今期のデータに一度しか読み込まれません。SCE では、1 つ以上の中間親を下位に持つ親から次期繰越処理が開始された場合、これらの親の上位調整が同時に完了されます。

- ▶ 期末残高の次期繰越を実行するには、[SCE 管理] ウィンドウで [次期繰越し] を選択します。

子の連結詳細データの抽出

Hyperion Enterprise から特定の親のすべての子の連結詳細データを抽出できます。この機能を使って、ルールの特ラブルシューティングを実行できます。

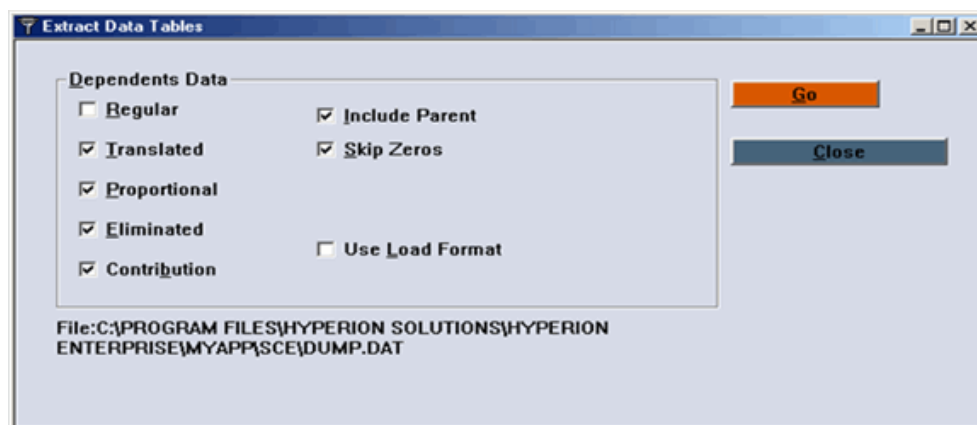
エンティティの実際のデータや、換算、比率、消去、および調整後データから、抽出するデータのタイプを選択します。親のデータを含めたり、ゼロを省いたり、

読み込み書式を使うことができます。ゼロの値のデータを非表示にする場合は、ゼロを省きます。抽出データを Hyperion Enterprise アプリケーションに読み込む場合は、読み込み書式を使います。

この処理により DUMP.DAT というファイルが作成され、アプリケーションの SCE サブディレクトリに書き込まれます。このファイルは、データ表を抽出するたびに自動的に上書きされます。

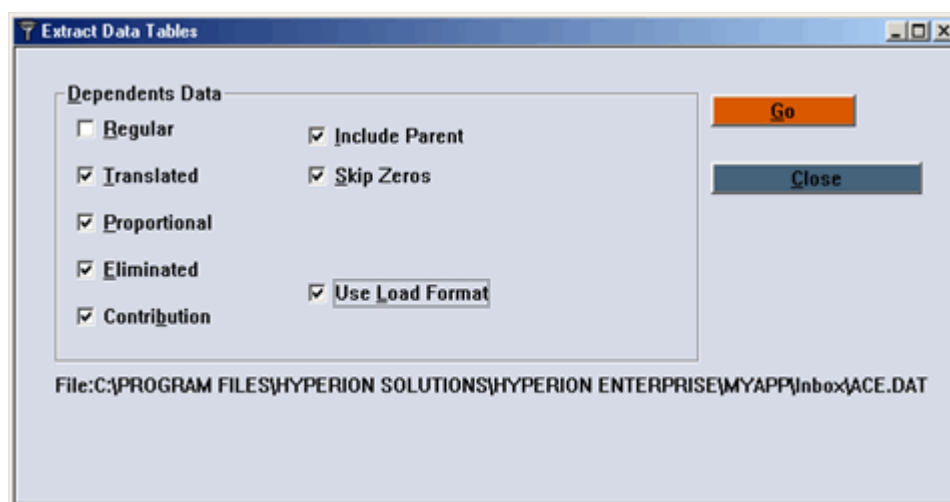
図 33 に、[データ表の抽出] ダイアログボックスを示します。

図 33 [データ表の抽出] ダイアログボックス



読み込み書式を使う場合、このファイルは SCE.DAT と呼ばれ、アプリケーションの INBOX ディレクトリに書き込まれます。このファイルは、抽出を実行するたびに上書きされます。図 34 は、[読込書式を使用] オプションが選択された状態の [データ表の抽出] ダイアログボックスを示したものです。

図 34 [データ表の抽出] ダイアログボックス - [読込書式を使用] オプション



▶ 子の連結詳細データを抽出するには、次の手順に従います。

- 1 [SCE 管理] ウィンドウで、[DSM の抽出] を選択します。
- 2 Hyperion Enterprise から抽出するデータとして、標準、換算、比率、消去、または調整後のいずれかを選択します。

- 3 親データを含めるか、ゼロを省くか、あるいは読み込み書式を使うかを選択します。
- 4 [実行] をクリックします。

転記済みトランザクションの表示

.MDB 監査ファイルを設定した場合、[監査証跡の表示] オプションを使って転記されたトランザクションを表示できます。監査ファイルがない場合、または監査ファイルが.TXT 形式の場合は、監査ファイルを表示できないというメッセージが表示されます。詳しくは、[13 ページの「監査ファイル」](#)を参照してください。

- ▶ 転記済みトランザクションを表示するには、次の手順に従います。
 - 1 [SCE 管理] ウィンドウに移動します。
 - 2 [監査証跡の表示] を選択します。

この章の内容

期別処理	57
前期	57
パートナーの消去データ表	58
複数レベルの連結	58
配賦先勘定科目	59
変動サブ勘定科目	60
サブ勘定科目 OPE からサブ勘定科目 VAR への変換	60
期末残高サブ勘定科目	61

期別処理

SCE では、アプリケーションレベルの期別表示またはデータ種別累計表示から開始されるデータの換算および連結オプションを制御します。SCE では期別連結またはデータ種別累計連結のアプリケーション設定を読み込んで、データの読み込みおよび書き込み方法を判断します。ユーザの選択を認識すると、SCE では選択された表示を使用してすべての値を読み込み、処理し、書き戻します。換算、連結およびすべてのデータ種別に対して同じ処理が実行されます。

フロー勘定科目に対しては、期別換算は Hyperion Enterprise の PVA 関数と同じように機能し、YTD 換算は VAL 関数のように機能します。

換算には、連結とは異なる表示を選択できます。換算ロジックについては、[15 ページの「換算ロジック表示形式の変更」](#)を参照してください。

前期

値の連結および換算に対して選択するデータの視点 (POV) は、SCE が前期の情報にアクセスするときに SCE が前期とみなすものに影響を及ぼします。表示がデータ種別累計に設定されている場合、前期は前期のデータ種別に定義されている最後の期間になります。表示が期別に設定されている場合、前期は今期から現在のデータ種別の期間を差し引いたものになります。今期がデータ種別の最初の期間である場合は、前期のデータ種別の最後の期間が参照されます。

注： このメカニズムは、会計年度末がデータ種別の境界に対応している場合にのみ有効です。期別替データ種別または1年より長い短いデータ種別では、問題が発生する場合があります。

パートナーの消去データ表

CON 関数は、PELIM 表と呼ばれるパートナーの消去表に書き込みを行うとき、次に示すように機能します。

- 移動先のエンティティは、配賦元勘定科目の会社間サブ勘定科目になります。
- 配賦先会社間サブ勘定科目は移動元のエンティティで、配賦元勘定科目のサブ勘定科目レベルと同じであることが想定されています。

次の形式を使用します。

CON (DESTINATION, , , , PELIM)

例えば、以前の形式を使用して ITALY の#SOURCE.SUB1.UK を UK の#DESTINATION.SUB1.ITALY に連結します。

配賦元勘定科目と配賦先勘定科目に対応するレベルのサブ勘定科目が存在しない場合は、@NAM キーワードを使用して、会社間サブ勘定科目を配賦先勘定科目に配置する場所を指定できます。

次の形式を使用します。

CON (DESTINATION, @NAM, , , PELIM)

例えば、以前の形式を使用して ITALY の#SOURCE.SUB1.UK を UK の#DESTINATION.ITALY に連結します。

配賦元勘定科目の会社間サブ勘定科目は、配賦先勘定科目の会社間サブ勘定科目になるように強制できます。

次の形式を使用します。

CON (DESTINATION, , @SUB2, , PELIM)

例えば、前の形式を使用して ITALY の#SOURCE.SUB1.UK を UK の#DESTINATION.SUB1.UK に連結します。

カスタム関数については、[29 ページの「TRN 関数」](#) および [31 ページの「CON 関数」](#) を参照してください。

@NAM キーワードは次のプロセスで検証されます。

- 現在の子が会社間でない場合、SCE では子の下にある持株会社を使用しようとします。
- 持株会社が存在しない場合、SCE では親の持株会社を使用しようとします。
- 親の持株会社が存在しない場合は、エラーが生成され、連結は中止されます。

複数レベルの連結

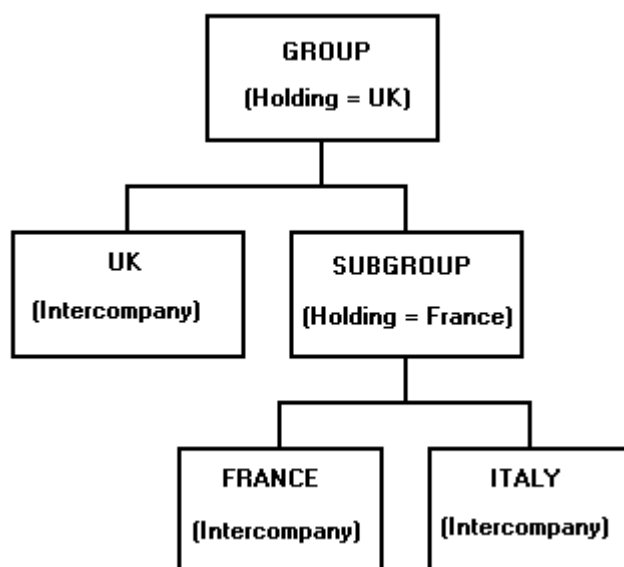
会社がサブグループに連結され、これらのサブグループがその上位レベルのグループに連結されるような複数レベルの連結が実行される場合、システムがパートナー

の消去トランザクションを生成できないような次の2つの状況に遭遇する場合があります。

- 連結されたエンティティがグループの親で、有効な会社間エンティティではない。
- トランザクションのパートナーが現在の親の直属の子ではない。

図 35 に、これらの状況が発生する可能性のある連結例を示します。

図 35 連結例



最初の状況では、エンティティ Subgroup の#SOURCE.UK はエンティティ UK 内の#DESTINATION.SUBGROUP になります。但し、Subgroup は会社間エンティティではないので、これは無効です。このため、システムによって UK 内の#DESTINATION.FRANCE に対してトランザクションが生成されます。France は Subgroup に指定されている持株会社であるためです。

2 番目の状況では、UK 内の#SOURCE.ITALY はエンティティ Italy の#DESTINATION.UK になります。Italy は Group の直属の子ではないので、これは不可能です。このため、システムによってエンティティ Subgroup 内の#DESTINATION.UK に対してトランザクションが生成されます。UK は Group の直属の子である Italy の親であるためです。

配賦先勘定科目

ルールによって無効な勘定科目が生成された場合、SCE ではトランザクションを破棄する前に、1 つ下のレベルのサブ勘定科目を使用してこの勘定科目を再定義しようとします。これによって、異なる勘定科目構造に同じルールを使用できるようになります。

例えば、ルール CON(PLUG,,,ELIM,INB)によって、配賦先勘定科目 PLUG.FRANCE に消去が生成されるとします。PLUG.FRANCE が存在しない場合、SCE ではトランザクションを無効なものとして破棄する前に、勘定科目 PLUG への書き込みを試みます。

同じ原理が 2 レベル勘定科目にも適用されますが、第 2 レベルのみが破棄されます。例えば、CON(PLUG,,,ELIM,INB)ルールによって PLUG.SUB1.FRANCE に消去が生成され、PLUG.SUB1.FRANCE が存在しない場合、SCE ではトランザクションを破棄する前に、勘定科目 PLUG.SUB1 のみへの書き込みを試みます。SCE では勘定科目 PLUG 自体への書き込みは試みません。

また、SCE では配賦先勘定科目の ID の生成時に検証を実行します。この検証により、主要勘定科目にサブ勘定科目が付属していないことが確認されます。サブ勘定科目が付属している場合は、エラーメッセージが生成され、連結は中止されます。

注： SCE ではサブ勘定科目にサブ勘定科目が付属していないことを確認する検証も実行します。

変動サブ勘定科目

SCE では、同じタスクを自動的に実行できます。これを行うには、適切な勘定科目表を設定し、SCE 管理モジュールのグローバル設定に正しいパラメータを指定する必要があります。これらのタスクは次のとおりです。

- 期末残高を次期繰越する
- サブ勘定科目 OPE をサブ勘定科目 VAR に変換する
- 期末残高サブ勘定科目を計算する
- WAO 比率の重み平均を計算する

SCE では、アプリケーションの各貸借対照表の勘定科目に対して次の 3 種類のサブ勘定科目 ID を認識できます。

- OPE サブ勘定科目。この期間の期首残高を含むサブ勘定科目。
- TOT サブ勘定科目。この期間の期末残高を含むサブ勘定科目。
- VAR サブ勘定科目。連結構造の変更による前期からの変更を含むサブ勘定科目。

サブ勘定科目 OPE からサブ勘定科目 VAR への変換

連結中に、SCE が期首残高サブ勘定科目に対応するサブ勘定科目の値を見つけた場合、配賦先サブ勘定科目のデフォルトが、グループ構造の変更による差異を含むサブ勘定科目に設定されます。この機能は、SCE 機能のデフォルトの動作とは異なりますが、この機能を使用すると、アプリケーション内のすべての期首残高サブ勘定科目に例外ルールを定義することを避けることができます。

例えば、期首残高サブ勘定科目が OPE で、期末残高サブ勘定科目が TOT で、構造の変更が VAR であるとします。ほとんどの場合、今期の連結中はサブ勘定科目 OPE の値をスキップし、前期の連結結果を前期の TOT サブ勘定科目から読み込み、その結果を今期の OPE サブ勘定科目に移動します。一方、今期の期首残高と前期の連結期末残高の差異は、出資比率の変化などのグループ構造のみの変更

よって表すことができます。この差異は、VAR サブ勘定科目に記録する必要があります。

例えば、連結プロセス中に 1,000 の値が INVEST.OPE.FRANCE 勘定科目に含まれている場合は、SCE ではこの値を自動的に INVEST.VAR.FRANCE に変換し、勘定科目 INVEST に割り当てられているルールを適用します。これによって、期末残高サブ勘定科目 (TOT) の値を OPE サブ勘定科目に書き込めるようになります。期末残高サブ勘定科目 (TOT) の値は、前期の比率および消去の値のサブ勘定科目 TOT に割り当てられている別のルールを使用した前期の連結の結果です。

期末残高サブ勘定科目

多くの法定連結アプリケーションでは、会社間パートナーによって詳細が定義される貸借対照表期末残高を、これらのパートナーに適用されるすべての変更の合計に期首残高を足したものとして自動的に計算することが求められます。Hyperion Enterprise では、期首残高のサブ勘定科目、すべての変更を含む複数のサブ勘定科目、期末残高の最終なサブ勘定科目などの詳細を含むサブ勘定科目表を定義することで、この計算を行います。主要勘定科目を期末残高として使用することはできません。この勘定科目の詳細をフローアクティビティおよび会社間パートナーが同時に定義することはできないためです。

SCE では、連結プロセス中にこれらの期末残高サブ勘定科目の自動計算を実行できます。実行するには、アプリケーションでこの目的に使用するサブ勘定科目の ID を指定します。

フローアクティビティに使用するサブ勘定科目のいずれかに、暗黙のマイナス記号があり、プラス記号 (+) を使用して減少が入力される場合は、これらを指定できます。SCE では合計の計算時にこれらが考慮されます。詳しくは、[22 ページの「特殊フローの定義」](#)を参照してください。

この章の内容

[データ表の抽出] ダイアログボックスのオプション	63
[SCE 管理] ウィンドウのオプション	64
[SCE デフォルトルール] ウィンドウのオプション	65
[SCE デフォルトルール] ウィンドウのオプション: [連結] タブ	65
[SCE デフォルトルール] ウィンドウのオプション: [変換] タブ	66
[SCE グローバル設定] ウィンドウのオプション	66
[SCE グローバル設定] ウィンドウのオプション: [次期繰越] タブ	67
[SCE グローバル設定] ウィンドウのオプション: [コードセット] タブ	68
[SCE グローバル設定] ウィンドウのオプション: [フロー] タブ	68
[SCE グローバル設定] ウィンドウのオプション: [一般] タブ	68
[SCE グローバル設定] ウィンドウのオプション: [会社間グループ] タブ	69
[SCE グローバル設定] ウィンドウのオプション: [キーワード] タブ	69
[SCE グローバル設定] ウィンドウのオプション: [前期の親] タブ	70
[SCE グローバル設定] ウィンドウのオプション: [レート] タブ	70
[SCE グローバル設定] ウィンドウのオプション: [特殊フロー] タブ	71
[SCE マクロルールエディタ] ウィンドウのオプション	71
[SCE マクロルールエディタ] ウィンドウのオプション: [連結] タブ	71
[SCE マクロルールエディタ] ウィンドウのオプション: [変換] タブ	72
[SCE ロジックエディタ] ウィンドウのオプション	72
[SCE ロジックエディタ] ウィンドウのオプション: [連結] タブ	73
[SCE ロジックエディタ] ウィンドウのオプション: [変換] タブ	73

[データ表の抽出] ダイアログボックスのオプション

特定の親について、Hyperion Enterprise から抽出するデータのタイプを選択するために使用します。

子のデータ

Hyperion Enterprise から抽出するデータとして、標準、換算、比率、消去、または調整後のいずれかを選択します。これらの連結詳細の値は、詳細記憶モデル (DSM) と呼ばれます。また、親データを含めるか、ゼロを省略するか、読込書式を使用するかどうかを選択します。

[SCE 管理] ウィンドウのオプション

上の行のボタンを使うと、データの視点を設定できます。アプリケーション、アプリケーション内の親、データ種別、および SCE 関連タスクの期間を変更できます。

[SCE 管理] ウィンドウの中央の行にあるボタンを使用して、グローバル設定の編集、ルールの編集、ロジックの編集、ロジックのコンパイルなどの SCE タスクを実行します。これらのタスクは順序に関係なく実行できますが、コンパイルする前にあらかじめグローバル設定、ルール、ロジックを設定しておく必要があります。

下の行にあるボタンを使用して、期首残高の繰り越し、連結詳細 (DSM) コンポーネントの抽出、実行されたトランザクションの監査証跡の表示などの SCE 関連の管理タスクを実行します。

アプリケーション

アプリケーションを変更する場合に選択します。

親

指定したアプリケーション内で親を変更する場合に選択します。

データ種別

指定したアプリケーション内でデータ種別を変更する場合に選択します。

日付 (期間)

下の行の SCE 関連タスクに指定したアプリケーション内で、期間を変更する場合に選択します。

グローバルの編集

[SCE グローバル設定] ウィンドウにアクセスし、レート、キーワード、コードセット、フロー、特殊フロー、前期の親、会社間グループ、および一般的な設定を指定する場合に選択します。

デフォルトルールの編集

[SCE デフォルトルール] ウィンドウにアクセスし、勘定科目およびサブ勘定科目のデフォルトルールを定義する場合に選択します。

ルールの編集

[SCE ルールエディタ] ウィンドウにアクセスし、SCE 内でルールを作成／編集する場合に選択します。

ロジックの編集

[SCE ロジックエディタ] ウィンドウにアクセスし、アプリケーションの換算ロジックや連結ロジックを編集する場合に選択します。

ロジックのコンパイル

アプリケーションに設定したすべてのロジックとルールをコンパイルする場合に選択します。

次期繰越し

特定の親と前期のデータ種別の期首残高を現在のデータ種別に繰り越す場合を選択します。

DSM の抽出

[データ表の抽出] ウィンドウにアクセスし、特定の親のすべての子のデータを抽出する場合に選択します。

監査証拠の表示

実行された転記済みトランザクションを表示する場合に選択します。

[SCE デフォルトルール] ウィンドウのオプション

デフォルトのルールを、すべての勘定科目またはサブ勘定科目、あるいは特定の勘定科目またはサブ勘定科目に割り当てるために使用します。

[変換] タブ

Hyperion Enterprise で定義された換算ロジックの指定されたデータ表に含まれるデフォルトルールを、勘定科目またはサブ勘定科目に割り当てるために使用します。換算ロジックの有効なデータには、ENTITY、OPEN_TRAN、OPEN_ENTITY があります。

[連結] タブ

Hyperion Enterprise で定義された連結ロジックの指定されたデータ表に含まれるデフォルトルールを、勘定科目またはサブ勘定科目に割り当てるために使用します。連結ロジックの有効なデータには、ENTITY、OPEN_TRAN、OPEN_PROP、OPEN_ELIM、OPEN_PADJ、OPEN_COUNT があります。

[SCE デフォルトルール] ウィンドウのオプション : [連結] タブ

Hyperion Enterprise で定義された連結ロジックの指定されたデータ表に含まれるデフォルトルールを、勘定科目またはサブ勘定科目に割り当てるために使用します。連結ロジックの有効なデータには、ENTITY、OPEN_TRAN、OPEN_PROP、OPEN_ELIM、OPEN_PADJ、OPEN_COUNT があります。

デフォルトルール

連結属性を持つすべての勘定科目に適用するデフォルトルールを入力します。

サブ勘定科目

デフォルトルールを割り当てるサブ勘定科目の ID を入力します。

ルール

ルールおよびパラメータを入力します。

コメント

デフォルトルールに関連したコメントを入力します。

[SCE デフォルトルール] ウィンドウのオプション : [変換] タブ

Hyperion Enterprise で定義された換算ロジックの指定されたデータ表に含まれるデフォルトルールを、勘定科目またはサブ勘定科目に割り当てるために使用します。換算ロジックの有効なデータには、ENTITY、OPEN_TRAN、OPEN_ENTITY があります。

収益／費用

すべての収益勘定科目と費用勘定科目に適用するデフォルトルールを入力します。

資産／負債

すべての資産勘定科目と負債勘定科目に適用するデフォルトルールを入力します。

フロー／残高

すべてのフロー勘定科目と残高勘定科目に適用するデフォルトルールを入力します。

サブ勘定科目

デフォルトルールを割り当てるサブ勘定科目の ID を入力します。

ルール

ルールおよびパラメータを入力します。

コメント

デフォルトルールに関連したコメントを入力します。

[SCE グローバル設定] ウィンドウのオプション

グローバルな項目のセットを管理する場合に選択します。レート、キーワード、コードセット、特殊フロー、前期の親、会社間グループ、次期繰越変換表、および一般的な設定を指定できます。

[一般] タブ

監査ファイルの書式設定、換算ロジックの表示形式、四捨五入、およびデバッグモードを指定するために使用します。

[レート] タブ

平均レート、期末レート、前期の平均レート、前期の期末レートなど、親と子の両方の為替レートを設定するために使用します。

[キーワード] タブ

SCE マクロで使用する内部キーワードを割り当てるために使用します。内部キーワードは、Hyperion Enterprise の勘定科目表で使われる外部キーワードと一致します。

[コードセット] タブ

SCE ルールの基準パラメータで使うコードセットを定義するために使用します。

[フロー] タブ

期首残高、連結構造の変更、期末残高について頻繁に実行されるタスクの外部組織単位を入力するために使用します。

[特殊フロー] タブ

逆フローのグローバル設定を提供する特殊フロー項目を入力するために使用します。

[前期の親] タブ

あるエンティティについて親の組織単位を指定し、前期の正しい換算データをその親の下で検索するために使用します。

[会社間グループ] タブ

複数の会社間トランザクションを 1 つの会社間 ID に統合するために使用します。

[次期繰越] タブ

次期繰越の処理中に使われるサブエンティティ変換表を作成するために使用します。

[SCE グローバル設定] ウィンドウのオプション : [次期繰越] タブ

次期繰越の処理中に使用するサブエンティティの変換表を定義するために使用します。

繰越元サブエンティティ

値を繰り越す元となるサブエンティティを入力します。

繰越先サブエンティティ

値を繰り越す先となるサブエンティティを入力します。

[SCE グローバル設定] ウィンドウのオプション : [コードセット] タブ

SCE ルールの基準パラメータで使用するコードセットを定義する場合に選択します。

コードセット名

コードセットの名称を入力します。

セットに含まれるコード

SCE のコードセットと関連付けるため、Hyperion Enterprise のロジックコードを入力します。

[SCE グローバル設定] ウィンドウのオプション : [フロー] タブ

期首残高、連結構造の変更、期末残高について頻繁に実行されるタスクの外部組織単位を入力するために使用します。

外部組織単位

Hyperion Enterprise のフロー関連の勘定科目の外部組織単位を入力します。

[SCE グローバル設定] ウィンドウのオプション : [一般] タブ

監査ファイル、換算ロジックの表示形式、四捨五入、デバッグモードなどの一般的な設定を指定するために使用します。

監査用 ASCII ファイル

監査ファイルを作するかどうか、および使用するファイルフォーマットを選択します。

デバッグモード

デバッグモードを入力する場合に選択します。

換算ロジックの表示形式

換算データと同じ表示形式を連結データで使用するには、[連結と同じ] を選択します。それ以外の場合は、使用する表示形式のタイプとして [累計] または [期別] のいずれかを選択します。

四捨五入

[四捨五入する桁数] テキストボックスにアクセスする場合に選択します。

四捨五入する桁数

処理済み SCE トランザクションを四捨五入する桁数を表す整数を入力します。ゼロよりも大きい整数を入力すると、その整数で指定した桁数に四捨五入されます。ゼロよりも小さい整数を入力すると、その整数で指定した小数点以下の桁数に四捨五入されます。

トランザクション詳細の保存

SCE トランザクションを監査で使用するために Access (MDB) ファイルに保存する場合に選択します。

換算

換算トランザクションの詳細を保存する場合に選択します。

比率

比率トランザクションの詳細を保存する場合に選択します。

消去

消去トランザクションの詳細を保存する場合に選択します。

[SCE グローバル設定] ウィンドウのオプション : [会社間グループ] タブ

配賦元勘定科目と配賦先勘定科目の会社間グループを入力する場合に選択します。

親

会社間グループを割り当てる親を入力します。

会社間グループリスト

親に割り当てる会社間グループの名前を入力します。

[SCE グローバル設定] ウィンドウのオプション : [キーワード] タブ

ルールのキーワードを割り当て、Hyperion Enterprise の勘定科目表で使われるキーワードと一致させるために使用します。

内部キーワード

勘定科目表で使用される Hyperion Enterprise キーワードと一致し、マクロで使用する SCE キーワードを入力します。

外部キーワード

SCE の内部キーワードと関連させる、勘定科目表で使用する Hyperion Enterprise キーワードを入力します。

[SCE グローバル設定] ウィンドウのオプション : [前期の親] タブ

親の ID を指定し、前期の正しい換算データをその親の下で検索する場合に選択します。

データ種別

親のデータ種別を指定します。

期間

親の期間を指定します。

親

親の ID を指定します。

エンティティ

エンティティの ID を指定します。

前期の親

正しい換算データを検索する親の ID を指定します。

前期のエンティティ

正しい換算データを検索するエンティティを指定します。

[SCE グローバル設定] ウィンドウのオプション : [レート] タブ

平均レート、期末レート、前期の平均レート、前期の期末レートなど、親と子の両方の為替レートを設定するために使用します。

レート表

為替レートを割り当てるために使用します。行にはレートが表示されます。列には親とその子が表示されます。

[SCE グローバル設定] ウィンドウのオプション : [特殊フロー] タブ

逆フローについてグローバル設定を提供する特殊フロー項目を入力する場合に選択します。

逆フロー

黙示の負の記号を付ける勘定科目のコードを入力します。たとえば、減少勘定科目には「DEC」、償還勘定科目には「RET」などと入力します。

サブ勘定科目のフロー合計の計算

SCE が主要勘定科目内で類似したサブ勘定科目を検索すべきかどうかを指定します。

[SCE マクロルールエディタ] ウィンドウのオプション

現在のアプリケーションに適用されるルールセットを定義するために使用します。

[変換] タブ

勘定科目に割り当てられるルールセットで、Hyperion Enterprise で定義された換算ロジックの指定されたデータ表に含まれるものを定義するために使用します。

[連結] タブ

勘定科目に割り当てられるルールセットで、Hyperion Enterprise で定義された連結ロジックの指定されたデータ表に含まれるものを定義するために使用します。

[SCE マクロルールエディタ] ウィンドウのオプション : [連結] タブ

勘定科目に割り当てられるルールセットで、Hyperion Enterprise で定義された連結ロジックの指定されたデータ表に含まれるものを定義するために使用します。

ルール/関数

ルールの名称を入力します。ルールの名称は、関数 CON、TRN、CRI を使って定義された 1 つまたは複数のステートメントから成るユーザ定義の条件式です。

主要勘定科目

配賦先主要勘定科目の ID を指定します。

サブ勘定科目 1

配賦先第 1 レベルサブ勘定科目の ID を指定します。

サブ勘定科目 2

配賦先第 2 レベルサブ勘定科目の ID を指定します。

比率

配賦先の値を生成するために配賦元の値に掛ける値を指定します。

基準

トランザクションを生成する前に満たす必要がある条件を指定します。

[SCE マクロルールエディタ] ウィンドウのオプション: [変換] タブ

勘定科目に割り当てられるルールセットで、Hyperion Enterprise で定義された換算ロジックの指定されたデータ表に含まれるものを定義するために使用します。

ルール／関数

ルールの名称を入力します。ルールの名称は、関数 CON、TRN、CRI を使って定義された 1 つまたは複数のステートメントから成るユーザ定義の条件式です。

主要勘定科目

配賦先主要勘定科目の ID を指定します。

サブ勘定科目 1

配賦先第 1 レベルサブ勘定科目の ID を指定します。

サブ勘定科目 2

配賦先第 2 レベルサブ勘定科目の ID を指定します。

比率

配賦先の値を生成するために配賦元の値に掛ける値を指定します。

基準

トランザクションを生成する前に満たす必要がある条件を指定します。

[SCE ロジックエディタ] ウィンドウのオプション

連結ロジックおよび換算ロジックを表示／編集するために使用します。

[変換] タブ

勘定科目に割り当てられるルールで、Hyperion Enterprise で定義された換算ロジックの指定されたデータ表に含まれるものを一覧表示するために使用します。

[連結] タブ

勘定科目に割り当てられるルールで、Hyperion Enterprise で定義された連結ロジックの指定されたデータ表に含まれるものを一覧表示するために使用します。

[SCE ロジックエディタ] ウィンドウのオプション： [連結] タブ

勘定科目に割り当てられるルールで、Hyperion Enterprise で定義された連結ロジックの指定されたデータ表に含まれるものを一覧表示するために使用します。連結ロジックの有効なデータには、ENTITY、OPEN_TRAN、OPEN_PROP、OPEN_ELIM、OPEN_PADJ、OPEN_COUNT があります。

勘定科目

ルールを割り当てる勘定科目の ID を表示します。

ルール

勘定科目に割り当てるルールとパラメータがある場合は、それを入力します。

例外

1 つまたは複数の第 1 レベルサブ勘定科目で使用する特殊なルールを入力します。

コメント

連結ロジックに関連したコメントを入力します。

[SCE ロジックエディタ] ウィンドウのオプション： [変換] タブ

勘定科目に割り当てられるルールで、Hyperion Enterprise で定義された換算ロジックの指定されたデータ表に含まれるものを一覧表示するために使用します。換算ロジックの有効なデータには、ENTITY、OPEN_TRAN、OPEN_ENTITY があります。

勘定科目

ルールを割り当てる勘定科目の ID を表示します。

ルール

勘定科目に割り当てるルールとパラメータがある場合は、それを入力します。

例外

1 つまたは複数の第 1 レベルサブ勘定科目で使用する特殊なルールを入力します。

コメント

換算ロジックに関連したコメントを入力します。

A

データをユーロに換算するための関数と処理

この付録の内容

ユーロへのデータ換算の概要	75
特殊な SCE 処理に必要な情報	75

ユーロへのデータ換算の概要

ユーロとも呼ばれる単一の欧州通貨単位（ECU）で特定のエンティティを入力するようにアプリケーションを変更する場合、履歴データは変換せずに、特定エンティティのデータを新しい会計期間からユーロで入力し始めることができます。Hyperion Enterprise を実行して Statutory Consolidation Engine（SCE）を使用すると、連結処理中に前期の残高が正しく処理されるように設定することができます。期首残高は現地通貨のデータが含まれている前期から検索されるので、SCE がこれらの勘定科目の開始値を検索する Statutory Consolidation Engine の連結処理を変更する必要があります。この連結処理は次の場合に発生します。

- SCE で換算が実行される場合
- SCE で連結が実行される場合
- SCE で次期繰越処理が実行される場合
- SCE でロジックのテスト関数が実行される場合

特殊な SCE 処理に必要な情報

重要な注意事項

- 多くのアプリケーションの設計がそうであるように、換算ロジックまたは連結ロジックには、前期から期首残高を検索するロジックステートメントが含まれています。SCE 処理でユーロ変換をサポートする変更を加えると、SCE を使用して換算ロジックと連結ロジックのどちらを実行しても、期首残高がユーロに正しく換算されるようになります。入力ロジックは SCE によって実行されないの、ユーロへのデータ換算の対象とする期首残高参照を入力ロジックに含めないようにすることが重要です。これには、種類が入力、チャート詳細保存モデル、および親調整の入力であるロジックが含まれます。期首残高をユーロに変換する必要がある場合は、SCE を使用して変換してください。
- 履歴データはユーロに変換せずに、特定の期間の特定のエンティティに関するデータだけをユーロで入力し始める場合は、今後の通貨をユーロに変更す

るときに、換算対象のこのエンティティの前期のデータをまず保護することが重要です。前期のデータを保護すると、エンティティの通貨が変更されても履歴データは保存されます。エンティティの通貨を変更した後で新しい期間に入力したデータは、すべてユーロで表されます。但し、前期のデータへの参照は、特殊な SCE 処理によってユーロに換算されます。これは、新しい期間におけるロジックの実行で正しいユーロデータが使用されるようにするためです。

完了しておく必要があるタスク

この特殊なユーロ換算処理を実行するために必要な情報がすべて収集されるようにするには、次のタスクを完了しておく必要があります。

1. 換算対象のエンティティに関する前期のデータをすべて保護します。
2. エンティティの通貨属性をユーロに変更する
3. 換算対象のエンティティとユーロに変更する前の各エンティティの通貨属性が列記されたファイルを作成します。
4. GLOBAL.TXT ファイルを変更して、適切なキーワード情報を含めます。
5. EURORATES.TXT というファイルを作成して、通貨変換レートに関するすべての情報を含めます。

手順 1：換算対象のエンティティに関する前期のデータをすべて保護する

ユーロでのデータ入力を開始する必要がある換算対象のエンティティの場合は、まず前期のデータにデータ保護を適用する必要があります。

例えば、FRANCE が ACTUAL データ種別の 7 月 1 日の期間からユーロでのデータ入力を開始する場合は、まず 1 月 1 日～6 月 1 日の前期のデータにデータ保護を適用する必要があります。

注： 以前の通貨で表されるデータの整合性を保つため、前期のデータの保護は解除しないでください。保護を解除すると、前期のデータが変更されます。

手順 2：エンティティの通貨属性をユーロに変更する

通貨表でユーロを作成します。

換算対象のエンティティの通貨をユーロに変更します。

手順 3：各エンティティの前期の通貨属性が含まれているファイルを作成する

@APP_PATH\SCE ディレクトリに、拡張子が.TXT のファイルを作成し、ユーロでのデータ入力を開始するエンティティの名前と各エンティティの元の通貨ラベルを含めます。

エンティティの一覧が含まれているファイルの書式は、次のようになります。

<有効なエンティティ>, <ユーロに変更する前の元の通貨>
<有効なエンティティ>, <ユーロに変更する前の元の通貨>

例えば、エンティティの一覧が含まれている LISTONE.TXT というファイルの行は、次のようになる場合があります。

France, FRF
Italy, ITL

この例では、France と Italy の両方がユーロでのデータ入力を開始します。ユーロに変更する前の France の元の通貨は FRF で、Italy の元の通貨は ITL でした。

注： エンティティに下位構造が付属している場合は、下位構造の最上位ノードのオーバーライド通貨を指定することが可能なので、エンティティの完全名をファイルで指定する必要があります。例えば、エンティティ FRANCE に通貨 USD が割り当てられている場合でも、FRANCE に付属した下位構造の最上位ノード (TOT) には通貨 FRF が割り当てられている可能性があります。完全名 FRANCE.TOT の正しい通貨は FRF であり、USD ではありません。この設定は、ファイル内で次のように表示されます。

France.Tot, FRF

手順 5 : EURORATES.TXT でユーロ変換レート情報を指定する

テキストエディタを使用して、前期の検索処理で使用する通貨とそれに対応する変換レートの一覧が含まれているファイルを作成する必要があります。このレートファイルは、EURORATES.TXT という名前で @APP_PATH\SCE ディレクトリに保存し、アプリケーションで定義された有効な通貨ラベルとユーロ変換レートを内容として含める必要があります。レートの値は、1 ユーロに対する現地通貨の値として表す必要があります。こうすることにより、検索処理を実行したときに、データベースから検索された値をレートファイルのレートで除算した結果を取得できるようになります。

EURORATES.TXT の書式は次のとおりです。

<通貨>, <レート>
<通貨>, <レート>
...
<通貨>, <レート>

例は次のとおりです。

FRF, 6.55957
ITL, 1936.27
DEM, 1.95583

注： このレートファイルの情報は、レートがすべて同一であるという前提に基づき、あらゆるデータ種別と期間の処理で使用されます。調べることができるのは現在のレートのみであるため、レートを変更する場合は、どの変換処理にどのレートを使用したかに関する記録がなくなることには注意して

ください。複数の期間のレートを変更する必要がある場合は、元のレートとその適用日のコピーを保存することをお勧めします。

SCE を使用した処理の一般的なルール

変換に使用される通貨レート

SCE の処理では、換算レートを決定するために、ソースエンティティの通貨が必ず使用されます。SCE で連結を実行する場合の常として、OpenTran、OpenProp、OpenElim などのように、ソースデータが DSM データファイルに含まれている場合は、親エンティティの通貨が使用されます。ソースが標準データファイルである場合は、そのエンティティの通貨が使用されます。

変換に有効な勘定科目

すべての勘定科目を変換する必要はありません。特殊なユーロ換算では、換算対象の勘定科目のみが対象となります。

オラクル社の HyperionR EnterpriseR では、勘定科目が換算されるかどうかは、その勘定科目に対して通貨フラグが設定されているかどうかによって決まります。通貨フラグがオフになっている勘定科目は、フラグが特別な換算ロジックによって上書きされない限り、デフォルトで換算されません。

但し、SCE では、勘定科目を換算する必要があるかどうかは、一連の条件に基づいて決定されます。SCE では、TRN 関数 (TRN および Factor パラメータ) が割り当てられている勘定科目のみが換算されます。SCE では、特定の換算ロジックステートメントを換算ロジックの勘定科目に割り当てるか、デフォルトの換算ルールを特定の種類の勘定科目に割り当てることができます。

例えば、デフォルトの換算ルールで平均レートを指定して、種類が Income および Expense である勘定科目を換算し、種類が Assets および Liabilities である勘定科目は期末レートを使用して換算することができます。但し、種類が Balance および Flow である勘定科目に対しては、換算を一切行わないように指定することもできます。この場合、勘定科目の種類が Balance または Flow であり、勘定科目に特定の換算ロジックが割り当てられていないときは、この勘定科目は換算対象の勘定科目にならないため、ユーロ変換処理に含まれません。

注： SCE アプリケーションが最初に作成された時点では、勘定科目の種類に対してデフォルトの換算ルールは設定されていません。そのため、勘定科目に特定のロジックが割り当てられていない場合、この勘定科目は換算対象の勘定科目とみなされず、ユーロ変換処理に含まれません。

連結ロジックを実行する場合の連結

データソースが DSM (比率、消去、調整後、親の調整または換算) である場合は、前期の期首値を検索するときに親エンティティがユーロに変換されたかどうか調べられます。親エンティティが変換された場合、親エンティティの通貨を変換するために使用したレートに基づいて、検索したソースデータが変換されま

す。変換が完了すると、変換後のデータは通常の連結ルールに基づいて処理されます。

換算ロジックを実行する場合の連

前期の期首値を検索し、データソースが換算 DSM である場合、換算 DSM に関連した上記と同じルールが適用されます。OpenEntity のように、データがエンティティの標準データの前期から検索される場合、エンティティがユーロに変換されたかどうか調べられ、エンティティの通貨を変換するために使用されたレートに基づいて、検索されたソースデータが変換されます。

次期繰越

次期繰越を実行すると、エンティティの標準データファイルのデータが検索されます。エンティティがユーロに変換されたかどうか調べられ、エンティティの通貨を変換するために使用したレートに基づいて、検索されたソースデータが変換されます。次期繰越によって前期の親の調整 DSM のデータが検索される場合は、親エンティティがユーロに変換されたかどうか調べられます。それに続き、親エンティティの通貨を変換するために使用されたレートに基づいて、検索されたソースデータが変換されます。

テスト関数

テスト関数は、SCE のさまざまなロジックをテストするために使用されます。連結が実行されている場合と同様に、ユーロに変換するためのルールは、特定のロジックに指定されたルールと同じです。

索引

A - Z

ACE

- 一般的な設定, 13
- 関数, 29
- 管理, 11
- グローバル設定, 12
- 設定, 8
- ユーティリティ, 53
- ロジック, 45

ACE 管理

- ウィンドウ, 11
- 概要, 11
- 起動, 12
- 終了, 12

CON 関数

- Criteria パラメータ, 29
- Factor パラメータ, 29
- キーワード, 34
- 書式, 29
- パラメータ, 29
- パートナーの消去データ表への転記, 58

CRIELSE 関数

- 書式, 29

Criteria パラメータ

- CON 関数, 29
- TRN 関数, 29

CRI 関数

- キーワード, 34
- 書式, 33

Factor パラメータ

- CON 関数, 29
- TRN 関数, 29

Hyperion Enterprise, 8

Major パラメータ

- CON 関数, 29, 35
- TRN 関数, 29, 35

OPE サブ勘定科目, 60

PELIM 表, 58

SCE, 64

- 管理ウィンドウ, 64

[SCE 管理] ウィンドウのオプション, 64

[SCE グローバル設定] ウィンドウのオプション, 67

- [一般] タブ, 68
- [会社間グループ] タブ, 69
- [キーワード] タブ, 69
- [コードセット] タブ, 68
- [次期繰越] タブ, 67
- [前期の親] タブ, 70
- [特殊フロー] タブ, 71
- [フロー] タブ, 68
- [レート] タブ, 70

[SCE デフォルトルール] ウィンドウのオプション, 65

- [変換] タブ, 66
- [連結] タブ, 65

[SCE マクロルールエディタ] ウィンドウのオプション, 71, 72

- [変換] タブ, 72
- [連結] タブ, 71

[SCE ロジックエディタ] ウィンドウのオプション, 72

- [変換] タブ, 73
- [連結] タブ, 73

Sub1 パラメータ, 29, 35

Sub2 パラメータ, 29, 35

TRN 関数

- Criteria パラメータ, 29
- Factor パラメータ, 29
- Major パラメータ, 29
- Sub1 パラメータ, 29
- Sub2 パラメータ, 29
- キーワード, 34
- 書式, 29

VAR サブ勘定科目, 60

Windows, 65

SCE 管理, 64
 SCE グローバル設定, 66
 SCE デフォルトルール, 65
 SCE マクロルールエディタ, 71
 SCE ロジックエディタ, 72
 データ表の抽出, 63

あ行

アプリケーション, 53
 [一般] タブ, 68
 親
 前期の親の定義, 23
 変更, 53

か行

会社間グループ, 24
 [会社間グループ] タブ, 69
 監査ファイル, 13
 換算ロジック
 概要, 47
 表示形式の変更, 15
 換算ロジックの表示形式, 15
 勘定科目
 主要, 47
 配賦先, 59
 無効, 59
 関数
 CON, 29
 CRI, 33
 CRIELSE, 29
 TRN, 29
 概要, 29
 管理に関する注意事項, 57
 期別処理, 57
 期末残高
 サブ勘定科目, 61
 次期繰越, 54
 キーワード
 CON 関数, 34
 CRI 関数, 34
 Major パラメータ, 35
 Sub1 パラメータ, 35
 Sub2 パラメータ, 35
 TRN 関数, 34
 定義, 19
 [キーワード] タブ, 69

グループ, 会社間, 24
 グローバル設定, 12
 言語, 10
 構文
 CON 関数, 29
 CRIELSE 関数, 29
 CRI 関数, 33
 TRN 関数, 29
 子の連結詳細データ, 54
 コンパイル, ロジック, 51
 コードセット, 20
 [コードセット] タブ, 68

さ行

サブ勘定科目
 OPE, 60
 OPE から VAR への変換, 60
 VAR, 60
 期末残高, 61
 複数, 46
 変動, 60
 例外, 46
 残高, 54
 四捨五入設定, 17
 システム管理に関する注意事項, 57
 主要勘定科目, 47
 処理
 期別, 57
 累計, 57
 [次期繰越] タブ, 67
 設定
 一般, 13
 グローバル, 12
 四捨五入, 17
 前期, 57
 前期の親, 23
 [前期の親] タブ, 70

た行

定義, ロジック, 49
 テスト, ロジック, 50
 転記済みトランザクション, 56
 デバッグ機能, 15
 データ種別, 53
 データ種別累計処理, 57
 データの視点, 53

[データ表の抽出] ダイアログボックス, 63
[特殊フロー] タブ, 71
トランザクション, 56

な行

ネストされたルール, 41

は行

配賦先勘定科目, 59

パラメータ

CON 関数, 29

CRIELSE 関数, 29

CRI 関数, 33

Major, 35

Sub1, 35

Sub2, 35

TRN 関数, 29

グローバル, 12

ルール, 40

パートナーの消去データ表, 58

日付, 53

ファイル, 13

複数サブ勘定科目, 46

複数レベルの連結, 58

負のルール, 41

フロー, 22

[フロー] タブ, 68

[変換] タブ, 66, 72, 73

変換表, 67

次期繰越し, 67

変動サブ勘定科目, 60

ルールエディタウィンドウのオプション, 71

例外サブ勘定科目, 46

連結

子の詳細データ, 54

複数レベル, 58

ロジック, 48

[連結] タブ, 65, 71, 73

ロジック

ACE, 45

換算, 47

コンパイル, 51

定義, 49

テスト, 50

連結, 48

ロジックエディタウィンドウのオプション, 72

ま行

無効な勘定科目, 59

や行

ユーティリティ, 53

ら行

ルール

作成, 42

定義, 42

ネスト, 41

パラメータ, 40

負, 41

